

経営の健全化のための計画 の履行状況に関する報告書

平成 16 年 12 月

株式会社 ほくほくフィナンシャルグループ

目次

ページ

(概要) 経営の概況	1
1 . 16/9 月期決算の概況	1
2 . 経営健全化計画の履行状況	5
(1)業務再構築等の進捗状況	5
(2)経営合理化の進捗状況	14
(3)不良債権処理の進捗状況	17
(4)国内向け貸出の進捗状況	19
(5)配当政策の状況及び今後の考え方	22
(6)その他経営健全化計画に盛り込まれていた事項の進捗状況	23
(図表)	
1 収益動向及び計画	28
2 自己資本比率の推移	32
6 リストラの推移及び計画	36
7 子会社・関連会社一覧	37
8 経営諸会議・委員会の状況	38
10 貸出金の推移	42
12 リスク管理の状況	43
13 金融再生法開示債権の状況	51
14 リスク管理債権情報	52
15 不良債権処理状況	53
18 評価損益総括表	54
状況説明	56

（概要）経営の概況

1．16/9 月期決算の概況

(1)㈱ほくほくフィナンシャルグループの決算概況

当社は、平成 16 年 9 月 1 日に、北海道銀行との経営統合により、持株会社として同行の全株式を取得し、平成 16 年 9 月末の有価証券残高は 3 月末比 1,276 億円増加の 3,143 億円、総資産は 3,179 億円となりました。北海道銀行株式の保有は 9 月 1 日以降のため、上半期の有価証券平残は 2,076 億円、総資産平残は 2,100 億円となっております。

平成 16 年度上半期は、子銀行等からの配当収入 38 億円、経営管理料 2 億円により経常利益 38 億円、当期利益 38 億円となりました。

(2)傘下銀行の決算概況（北陸銀行、北海道銀行の合算）

イ．主要勘定

(A) 主要勘定平残

貸出金については、事業性貸出は需要の低迷と不良債権の償却・回収により減少傾向が続いておりますが、住宅ローンを中心とした個人向け貸出が堅調に増加しました。貸出金平残は前年同期比 433 億円増加の 6 兆 5,308 億円となり、年度計画を 12 億円上回っております。

有価証券については、北海道銀行において余資運用強化のため中期国債、利付国債を中心に増加させた一方、北陸銀行においては株式の持ち合い解消による売却を進めてまいりました。有価証券平残は前年同期比 1,386 億円減少の 1 兆 4,222 億円となり、年度計画を 54 億円上回っております。

この結果、総資産は前年同期比 421 億円減少の 8 兆 8,927 億円となっております。

預金・N C Dにつきましては、北陸銀行において満期を迎えた高利率の定期預金を投信等の預かり資産に振替を進めてまいりました。他方、北海道銀行においては宝くじ付定期預金が好調に推移し、個人預金を中心に残高が増加いたしました。預金・N C D平残は前年同期比 42 億円減少の 8 兆 1,414 億円となり、年度計画を 371 億円上回っております。

この結果、総負債は、年度計画を 407 億円上回り、前年同期比 507 億円減少の 8 兆 5,647 億円となっております。

(B) 資本勘定末残

期間収益の積み上げと持株会社への前期末配当支払いの結果、剰余金残高は平成 16 年 3 月末比 6 億円増加の 337 億円となりました。株式等評価差額金の改善もあり、資本勘定総体では 35 億円増加し、3,189 億円となりました。

ロ．損益の状況

(A) 業務粗利益

資金益については、住宅ローン残高は引き続き順調に増加いたしました。事業性貸出残高減少に伴う貸出金利息収入の減少が大きく、前年同期比 19 億円減少の 702 億円となりました。

役務益は、手数料体系の見直し効果に加え、投資信託や個人年金保険等の販売手数料が拡大しており、前年同期比 20 億円増加の 132 億円となりました。

金利オプション等のデリバティブ商品の取り扱いも堅調に推移したことから、業務粗利益総体では、資金益の伸び悩みを役務益等でカバーし、前年同期比 5 億円増加の 868 億円となり、年度計画 1,736 億円に対し進捗率は 50.0%となっております。

(B) 経費

人件費については、両行とも引続き削減に取り組んでおりますが、無配期間中の措置としていた賞与削減の一部復枠による人件費増加要因を人員減でカバーし、ほぼ前年同期並の実績となりました。二行合算の人件費は、前年同期比 1 億円減少の 200 億円となり、年度計画 399 億円に対して進捗率は 50.2%となっております。

物件費については、本年 9 月に実施した経営統合に係る一時費用、新紙幣発行に係る対応等の臨時支出要因がありましたが、更なる経費抑制に取り組んでおります。これによりまして、物件費は前年同期並の 218 億円となり、年度計画 446 億円に対して進捗率は 49%となっております。

以上に税金を加えた経費合計では、外形標準課税による増加要因 3 億円のため前年同期比 2 億円増加の 449 億円となっておりますが、年度計画 900 億円に対して進捗率は 50%であります。

(C) 業務純益（一般貸倒引当金繰入前）

上記の結果、業務純益（一般貸倒引当金繰入前）は前年同期比 2 億円増加の 418 億円となり、年度計画 836 億円に対して進捗率は 50%となっております。

(D) 経常利益

不良債権処理については、大型倒産や新規発生の減少、また企業支援活動の促進等による債務者区分の改善も一部にあり、その処理損失額は前年同期比 130 億円減少の 245 億円となっております。

株式関係損益については、引続き株式の持ち合い解消に取り組むなか、一部保有株式の償却を行ったうえで、12 億円の益金を計上いたしました。

これらによって、当期の経常利益は前年同期比 125 億円増加の 184 億円となり、年度計画 287 億円に対して進捗率は 64%となっております。

(E) 当期利益

当期利益については、繰延税金資産をより保守的に見直したことによる法人税等調整額 97 億円を計上したため、前年同期比 17 億円増加の 75 億円となりました。これは、年度計画 141 億円に対して進捗率は 53%となっております。

八．利回り・利鞘

貸出金利回りにについては、リスクに見合った適正な金利対応に努めておりますが、一方で相対的に高金利の既存長期貸出の返済が進み、利回りの低下傾向が続いております。平成 16 年度上半期は前期実績から 0.1%低下し 2.06%となりました。

預金利回りにについては、高金利の大口定期預金の受け入れ抑制等により前期比 0.02%低下の 0.07%となりました。経費率はほぼ変化なく、預貸金利鞘は前期比 0.09%低下し 0.88%となっております。

(3)自己資本比率

自己資本比率については、利益の積み上げ、リスクアセットの圧縮の両面の要因から両行単体ベースにおいて上昇しております。北陸銀行単体では、前年同期比 0.60%上昇の 8.32%となりました。また、北海道銀行単体でも、前年同期比 0.51%上昇の 6.84%となりました。

なお、当期末のほくほくフィナンシャルグループ連結での自己資本比率は 8.00%となっております。

(4)持株会社および銀行合算ベースの剰余金残高推移

(億円)

	16/3 月末(実績)	16/9 月末(実績)	17/3 月末予想
剰余金残高 (合算ベース)	378	403	450

(5)平成 17 年 3 月期業績見通し

今年度の F G 連結での業績見通しは、以下のとおりです。

【平成 17 年 3 月期の業績予想】 (億円)

	業績予想
経常利益	210
当期利益	100

2．経営健全化計画の履行状況

(1)業務再構築の進捗状況

イ．法人対応

(A) 貸出の増強

地域企業の健全な資金ニーズへの円滑な資金供給と地場産業の育成・振興を図るべく、中堅・中小企業を対象に、取引の裾野を拡げ、新たな資金需要の発掘に努めております。取引先訪問回数の増加、経営相談会の開催、小規模お取引先向けに利便性を追求したチャネル店舗開設や新商品の開発等により、顧客接点・案件取上げ数の拡大を図り、新規先の開拓や既往取引先のシェアアップに積極的に取り組んでおります。

[二行共同の取り組み]

- ・経営統合を記念した「ほくほくファンド 2004」(北海道信用保証協会提携)発売(H16/7月)。
- ・両行相互のお取引先紹介・協同しての渉外活動の展開。

[北陸銀行]

- ・顧客接点の拡大と融資マーケット拡大施策として「貸出先数増強運動」、「活動量倍増運動」の実施(H16/7月～)。
- ・北陸三県の商工業者対象の一斉訪問・相談実施(H16/4月、訪問先数約16千件)。
- ・中部CLO融資(富山県・愛知県・岐阜県対象)19件/703百万円実行(H16/7月)。
- ・財務制限条項付貸出商品(H16/1月発売、H16/9月末実行累計61件/2,754百万円)各道府県信用保証協会と連携したスコアリング商品、サポートファンド保証制度(H16/9月末実行累計503件/6,809百万円)等の積極推進。
- ・従来の中小口ローンタスクフォースに臨店指導機能を強化した中小企業貸出推進タスクフォースを結成(H16/10月～)。
- ・事業性新規融資 H16/上半期実績 1,788 先、534 億円(H16/9月末残高)。

[北海道銀行]

- ・審査権限の見直しによる「支店長決裁権限の拡大」と営業店における「決裁ラインの簡素化」により、お取引先の資金需要に迅速に対応する体制を構築。
- ・お取引先の利便性を勘案した商品として、固定金利かつ低金利な長期資金を提供する「ターゲット」等の商品を提供。
- ・札幌地区で小口融資向けの利便性と迅速性を兼ね備えた「ビジネスローンプラザ」を開設(H15/12月～)し、ご契約時以外の来店が原則不要の独自商品「Mind o(マ

- インドゥ)」を取り扱いし、小口資金ニーズとサービス向上に対応。
- ・法人新規融資 16/上半期実績 457 社、実行額 313 億円。

(B) 適正な金利対応

両行ともに、ボリュームに重点を置いた収益管理から、貸出資産の「質」を重視し、それに対応した「適正な利回り」を適用することにより、信用リスクに見合った収益確保を目指しております。

実際の金利適用にあたっては、銀行と取引先が問題点を共有化し、解決へのアドバイスを提供しながら、金利適用の考え方を十分に説明し、ご理解を得ながら対応しております。

[北陸銀行]

- ・ H15/4 月に本部内に設置したプライシングタスクフォースによる臨店指導等、本支店一体となった取り組みを継続実施。
- ・ H15 年度以降、業績評価における信用コスト控除後利益のウエイトを引き上げ、行内の意識付け強化。
- ・ 新格付制度導入に伴う貸出金利ガイドラインの見直し (H16/9 月)。
- ・ 貸出金利ガイドラインに資本コスト概念導入し、与信集中リスク管理を強化 (H16/9 月)。

[北海道銀行]

- ・ 取引先の財務状況等から総合的に判断される区分に応じ、貸出金利の運用ルールに照らし決定をしており、この区分と貸出金利が連動するよう、今後もコストに見合う収益確保にご理解を得ながら、地域における健全な事業資金のニーズに対応。
- ・ 「財務会計ネットワーク」を活用し、銀行・会計事務所・取引先が連携した積極的な情報開示により、融資利率が業績連動するコベナント融資商品「D o i t」の取扱開始、成長企業の経営支援・資金調達・金利ニーズに対応。
- ・ 「財務の健全性」の改善を目指す取引先に対し、「財務診断資料」を活用、問題提起と解決へのアドバイスを実施。

(C) その他の商品・サービス等

お客さまの多様なニーズにタイムリーにお応えすることが法人取引の裾野拡大や収益機会の増加、資金需要発掘の契機となっており、単に貸出推進のみならず、銀行業務に付随するアドバイス業務等の役務提供を積極的に展開しております。

[二行共同の取り組み]

- ・「ほくほく F G ビジネスフォーラム 2004」を富山市で開催、道内企業を含む出展企業(81 社)・参加企業(608 社)の交流・商談の場を提供、支援。(H16/9 月)
- ・「ほくほく F G ビジネスマッチングタスクフォース」を両行横断的組織として結成(H16/10 月～)
- ・取引先向けロシアセミナーの共同開催等
- ・北陸銀行の海外駐在員事務所(ニューヨーク、上海、シンガポール)拠点に加え、人員派遣中の富山県大連事務所・日中投資促進機構(北陸銀行より) 札幌市北京事務所、稚内市サハリン事務所(北海道銀行より)と連携した現地情報提供・進出サポート。

[北陸銀行]

- ・ビジネスマッチング研修の実施や顧客貢献運動の強化によるビジネスマッチングの取り組み強化(H15/4 月～H16/9 月累計実績約 16 千件)
- ・取引先との契約に基づくビジネスマッチング業務の開始(H16/6 月～)
- ・経営相談会(中小企業支援センター、商工会議所、商工会、北陸税理士会等と提携)の実施(H16/4 月～9 月 累計 16 回)
- ・金融サービスタスクフォースを中心とした取引先向け各種セミナーの継続実施による本部渉外支援の強化(確定拠出年金、金融資産運用、中国進出、株式公開等)
- ・中国ビジネス関連の取引先組織「ほくりく長城会」会員拡大(16/9 月末 446 先)と会員向けホームページ開設・相談受付。

[北海道銀行]

- ・ビジネスマッチングサービス「マッチ・ゲー！」の取扱開始(H16/7 月～)
- ・高度化する金融商品・サービスのご提案は勿論のこと、「ISO(国際標準規格)」や「HACCP(食品衛生管理手法)」等の取得支援や、M & A、事業承継、不動産の有効利用、新規事業の展開、企業の人事・福利厚生制度の整備充実等、企業の成長過程における事業戦略ニーズに対するアドバイザリー機能を強化・充実
- ・法人営業グループに「道銀地域企業経営研究所」を設置し、営業店における渉外スキルの充実とサポート・バックアップする体制を強化、企業が直面するさまざまな問題や課題について、蓄積している独自のノウハウをもとに効果的な提案・個別コンサルティングを実施。
- ・日々のビジネスから経営戦略の構築まで、企業に必要な情報と機能を満載した法人向けポータルサイト「道銀ビジネストレジャー」を運営。質量ともに国内最高水準のデータベースによる有益な「最新情報」、専門家への無料の「相談」や「商談」「交流」など、更なる飛躍のための経営ツールを提供し、約 2,000 社の経営者が活用。
- ・中国ビジネス交流会「ほっかいどう長城会」設立(H16/5 月)

ロ．個人対応

(A) 個人向けローン増強

個人向けローンは、両行とも住宅ローンやカードローンの推進を中心に引き続き増強を図っております。

[北陸銀行]

- ・ローン専門窓口である「ほくぎんローンプラザ」を 16 年上半期に 11 カ所を新設し、計 42 カ所体制に拡大。(休日営業拠点 23 カ所)
- ・住宅関連業者の営業担当者を組織化した「ほくぎんドリーム会」(H16/9 月末会員数約 3,450 名) に続き、ほくぎんリフォーム倶楽部発足しリフォーム業者を組織化 (H16/9 月)
- ・外部保証会社と提携したフリーローン「サポートマン」(H16/6 月発売) 「ローンプラザパック」(H16/9 月発売) により申込手続き時の利便性を向上。
- ・カードローン件数 H17/3 月末 60 万件達成に向け給振先へのセット推進、職域セールスの強化 (16/9 月末 535 千件〔前期末比 + 55 千件〕、上半期中 11 億円の残高増加実績)

[北海道銀行]

- ・住宅ローン推進拠点の「住宅ローンプラザ」を道内主要 10 都市で 12 カ所展開。住宅ローンの推進、提携業者工作の拠点として体制を強化。
- ・「住宅ローン～提携プラン」を取扱い提携業者との連携強化。
- ・24 時間受付、年中無休・非来店型の無担保カードローン「ラピッド」の増強。
(累計 5 万件超、H16 年上半期中 24 億円の残高増加実績)

(B) 給与受取口座、年金受取口座の増強

両行とも個人の基盤取引拡大と調達基盤の安定的拡大のため、給与振込口座・年金振込口座の獲得を柱とした流入機能の強化に取り組んでおります。

[北陸銀行]

- ・「ほくぎんポイント倶楽部」のポイント付与条件改定し、H16 上半期中 61 千先増加。
- ・給与振込先増強策として無通帳制の W E B アカウント発売 (H16/6 月) やコンビニ A T M 網の拡充 (H16/7 月) 等、利便性改善し、H16 上半期中 8,718 先増加。
- ・年金振込先は、「年金ご予約サービス」や年金相談会の開催等による受給予定者の囲い込み、「ほがらか倶楽部」による受給者維持を継続 (H16 上半期中 5,011 先増)

[北海道銀行]

- ・ 給与・年金受取先対象の取引優遇サービス「ステップD o」による取引内容に応じた各種手数料の優遇を実施（道内金融機関で最初に導入）。
- ・ 「年金ご予約安心サービス」、「年金講演会」による裁定請求手続きサポートのほか、年金に関するご相談に対応。既受取先は「道銀年金定期預金」にて金利優遇実施。
- ・ コンビニATM設置（H16/4月～）等、ATMネットワークを充実。
- ・ H16 年上半期中、給与受取口座 8,762 先増加、年金受取口座 5,327 先増加。

(C) 預かり資産の取入強化、その他の商品・サービス等

[北陸銀行]

【投資信託】行員向け勉強会・研修、顧客向けの資産運用セミナーの実施や、運用報告会開催による既保有者向けのアフターフォローなど販売体制の強化に努めた結果、定期分配型外債ファンドが引き続き好調なほか、リスク軽減型商品の投入により H16/9 月末預かり残高 1,395 億円（H16/3 月末比 381 億円増加）。H16/ 上半期手数料収入 13.9 億円（前年同期比 + 4.4 億円）。

【国債等】変動金利タイプの個人向け国債（H16/ 上半期中獲得 394 億円）やとやま県民債等のミニ地方債を中心にニーズ高まっており、H16/3 月末預かり残高 840 億円。

【保険窓販】H16/ 上半期中に年金保険 4 商品を追加投入。預かり保険料ベースで H16/ 上半期中 9,669 件/148 億円の実績。火災保険、債務返済支援保険等の住宅ローン関連保険は H16/ 上半期中約 1,500 件の取扱実績。H16/ 上半期手数料収入 9.9 億円（前年同期比 + 6.9 億円）。

【外貨建商品】外貨定期預金の特別金利キャンペーンに豪ドルを追加（H16/4 月）為替特約付商品「ターゲット A（エース）」の募集継続等により、H16/ 上半期中の個人外貨定期預金獲得実績 190 億円（うちターゲット A 149 億円）。

【決済用預金】ペイオフ対策商品として、H16/10 月より導入。

【確定拠出型年金】中小企業を主な加入対象とした総合型確定拠出年金制度「ほくぎん DC エース」の取扱い開始（H16/4 月）のほか、本部同行訪問提案を精力的に実施し、H16/ 上半期中は運営管理機関として導入実績 5 社（H14 年からの累計 21 社）。親密金融機関との共同営業の展開により商品提供機関として 3 社導入（H14 からの累計 6 社）。

【富裕者層向けの取り組み】特定富裕者登録先約 2,200 先に対し、本部に設置した金

融サービスタスクフォースによる訪問提案活動を継続・拡大のほか、取引先向け金融資産運用セミナーを H16/ 上半期中に 5 回開催し、個人富裕層の資金運用ニーズへ対応。

[北海道銀行]

【投資信託】投資信託販売の裾野拡大のため、店頭グループでの営業推進を強化。研修体系を大幅に見直し、担当者のスキル段階に応じたカリキュラムとした他、項目を絞ったカフェテリア形式のセミナーを実施。リスク限定型の投資信託については販売件数の約半分が店頭での実績。

H16/9 月末預かり資産残高 760 億円（H16/3 月末比 152 億円の増加）。H16/ 上半期手数料収入 5.8 億円（前年同期比 + 2.1 億円）。

【国債等】ペイオフ対策、他行資産の取り込み手段として、個人向け国債、公募地方債を中心に取組み。店頭グループ向けの提案力強化のための研修会を実施。

H16/9 月末預かり残高 687 億円。

【保険窓販】年金保険については、渉外担当者のレベルアップと店頭グループの戦力化に取組み、H16/ 上半期 941 件 61 億円と業務開始後最高の実績。住宅ローン関連長期火災保険については、H16/ 上半期 878 件、保険料ベースで 260 百万円の実績。H16/ 上半期手数料収入 3.3 億円（前年同期比 + 1.0 億円）。

【決済用預金】ペイオフ対策商品として、H16/11 月より導入

【富裕者層向けの取組み】H13/4 月の保険商品販売解禁以降、「変額年金保険」等の商品取扱いを順次開始。これに投資信託販売を加え、個人マーケットにおける提案型セールスのツール、役務収益増強の手段として販売強化。リスク商品に対するコンプライアンスを含めた研修会の実施等により職員の提案スキルは着実に向上しており、低金利時代の金利嗜好商品とて、着実に扱いを伸ばす。定期性預金を含めた預かり資産の残高は 2 兆 3,696 億円。

八．営業体制

(A) 本部営業推進部署の体制

[北陸銀行]

・支店部内にリテール推進本部を設置し、「個人推進室」と「中小企業取引推進室」が営業店の取引推進をセグメント別に担当、営業推進にあたる本部横断的組織として、

「消費者ローンタスクフォース」、「中小企業貸出推進タスクフォース」を結成し、企画・推進体制を強化。

- ・シンジケートローン、M & A、私募債、債権流動化、ファクタリング、E B、デリバティブ、富裕者対応等の専門的業務を個別対応する部署の窓口一元化した「金融サービスタスクフォース」にて機動的・包括的な各種提案・サービスを提供。

[北海道銀行]

- ・H11/7 実施の抜本的な組織再編により、スリムかつフラットな本部体制へ移行済であり、営業戦略・プロダクツ毎の担当部署が営業店サポート・本部渉外を実施。
- ・I Tによるチャネル多様化に対応する「ダイレクトバンキングセンター」や債券・投資信託・保険等の預かり資産販売を一元管理・推進する「投資保険センター」を設置。

(B) 営業店の体制

[北陸銀行]

- ・人的資源の戦略的配置の観点から、事務係長制導入による管理役席者数の適正化、後方チーム制導入や後方事務の本部集中化等、主に営業課における事務効率化を中心に実施。今後、融資業務や渉外業務の効率化を進めるべく、ブロック制の導入を検討。
- ・ほくぎんローンプラザはH16/9 月末 42 カ所（H16/3 月末比 11 カ所増加）、H17/3 月末 50 カ所体制へ向けた整備対応中。
- ・出張所のうち 43 カ店の呼称を「ほくぎんプラザ」として、中小企業向け取引や個人向け取引の拠点として展開。

[北海道銀行]

- ・従来の全店フルバンキング体制から、地域およびお客様のニーズに応じた機能別の店舗体制への見直し。具体的には、新営業店運営体制による「フルバンキング型店舗」「店頭特化型店舗」への既存店舗の転換、および「住宅ローンプラザ」「個人ローン専門ネット支店」「ビジネスローンプラザ」等の機能特化店の拡充により、お客さまの利便性を確保しつつ、機能分類型の効率的な店舗運営を構築お客さまのニーズに特化した機能集約型の営業拠点を拡大。
- ・「住宅ローンプラザ」は、道内 12 プラザの体制を構築し、道内主要都市を網羅。
- ・「ビジネスローンプラザ」を中小企業向け貸出に特化した店舗として開設、スコアリングシステムを活用した原則来店不要（ご契約時を除く）のスキームにて、中小企業、個人事業主向けのデリバリーチャネルと利便性の高い商品を提供。

(C) その他のチャネル

お客様のライフスタイルやニーズの多様化に対応し、サービス向上を図るとともに、ローコストチャネルを構築すべくチャネルの多様化に取り組んでおります。

[北陸銀行]

- ・従来の㈱イーネット提携コンビニＡＴＭに加え、H16/7月よりローソン 32 店にコンビニＡＴＭを設置し、北陸三県での設置台数累計 136 台（H16/9 月末）。
- ・インターネットバンキングにおいては、マルチペイメント機能追加による利便性向上を図り、個人向け「ダイレクトＡ（エース）」の H16/9 月末契約先数は H16/3 月末比 14 千先増加の約 63 千先。法人向け「Ｂ-ダイレクト」は契約先数 5,500 件を突破。

[北海道銀行]

- ・H16/4 月より㈱イーネットとの提携によるコンビニＡＴＭを札幌圏のセイコーマート 39 店に設置。H16/5 月にはローソンとも提携し 42 店に設置のほか、サンクス 18 店に設置。
- ・店舗ネットワークを補完する一環として自動機の拡充および時間延長、数字選択式宝くじの販売等の機能サービスを充実。
- ・テレビ会議を活用した相談システムを導入し、投資信託・個人ローン等でのご相談を本部の専門スタッフが受付。双方『顔』を見ながらのご相談による安心感が好評につき全店への展開を検討中。

二．子会社・関連会社の収益等の動向

(A) 北陸カード

- ・平成 16 年度中間期は営業収益 1,386 百万円、経常利益 63 百万円、税引後当期純利益 78 百万円を計上。
- ・当社カードホルダーの利用促進キャンペーン実施等により、手数料収入増加を図る。
- ・カード業界の動向も見極めつつ、グループ一体となったカード推進施策を展開。

(B) 北銀リース

- ・平成 16 年度中間期は営業収益 9,771 百万円、経常利益 501 百万円、税引後当期純利益 275 百万円を計上。
- ・リース料率の競争が激化し、リース・割賦販売の実行額は前年同期比 12.1%減少。
- ・業務協力協定を締結した日本政策投資銀行と連携し、グループ総体での総合的金融機能の強化を図り、通期では前年実績並みのリース・割賦販売実行額を目指す。

(C) 北陸キャピタル

- ・平成 16 年度中間期は営業収益 153 百万円、経常利益 60 百万円、税引後当期純利益 87 百万円を計上。
- ・本中間期には北海道内の当社投資先が新規上場を果たし、キャピタルゲイン確保。
- ・グループ内での連携を強化し、地域のベンチャー企業の発掘やコンサルティング機能を発揮し、地域の事業育成や新規事業支援に特化していく。

(D) 北陸保証サービス

- ・平成 16 年度中間期は営業収益 682 百万円、経常利益 230 百万円、税引後当期純利益 44 百万円を計上。
- ・北陸銀行の住宅ローン残高の堅調な伸びを受け、受取保証料を中心に営業収益は前年同期比 85 百万円増加。
- ・引き続き銀行との連携を強化し、初期の延滞整理を含む途上与信管理の徹底を図る。

(E) 北銀ソフトウェア

- ・平成 16 年度中間期は営業収益 647 百万円、経常利益 74 百万円、税引後当期純利益 45 百万円を計上。
- ・北陸銀行へのシステム開発要員の派遣減少等により、営業収益は前年同期比 99 百万円減少。
- ・売上原価の圧縮により営業費用は前年同期比 123 百万円減少し、営業利益では前期比 24 百万円増加。
- ・地公体再編の動きを捉え、グループ外からの収益機会を追求していく。

(F) 日本海債権回収

- ・平成 16 年度中間期は営業収益 64 百万円、経常利益 11 百万円、税引後当期純利益 11 百万円を計上。
- ・H16/4 月よりグループ内会社の北陸銀行、北銀リース、北陸保証サービスからの債権回収受諾を中心に営業開始。
- ・H16/ 上半期は受託先全体の 1/4 に該当する 91 先の回収・整理実績となり、グループ全体の開示債権圧縮や引当金戻入に相応の成果。
- ・引き続きグループ内（北陸三県分）の不良債権回収・整理に努めるとともに、北陸銀行が設立予定の企業再生支援会社（北銀コーポレート）や北海道銀行との協調も検討。

(G) 道銀カード

- ・平成 16 年度中間期は営業収益 1,322 百万円、経常利益 9 百万円、税引後当期純利益 8 百万円を計上。
- ・カード部門はホルダーの利用促進キャンペーン実施等により、手数料収入増加を図る。
- ・保証部門は北海道銀行の住宅ローン残高の堅調な伸びを受け、受取保証料は増加。

(2)経営合理化の進捗状況

イ．人件費の削減

(A) 行員数の適正化と行員処遇の見直し

[持株会社]

- ・ H16/9 月の経営統合後、持株会社職員は両行からの出向者 54 名で構成（兼務含む）。

[北陸銀行]

- ・ 退職による自然減や出向による減員、新卒採用を抑制したことを主因に、16/9 月末人員実績は H16/3 月末比 60 名減少の 2,866 名、H17/3 月末 2,790 名体制を展望。
- ・ 業務の見直しによるアウトソーシング拡大や、本部組織の再編、事務係長制や後方チーム制の拡大、パートスタッフの活用等の施策により、行員減少をカバーしマンパワー維持と人件費抑制。
- ・ 新人事制度（H15/1 導入）による定昇完全廃止等、給与体系の見直しにより、成果に見合ったメリハリのある処遇体系を適用済。
- ・ 優先株式無配期間中に対応した賞与支給率および副支店長以上の職務手当削減の復活については、収益状況を鑑みて段階的に対応。

[北海道銀行]

- ・ H16/9 月末行員数は、H16/3 月末比 64 名減少の 1,838 名。
- ・ 「新営業店運営体制」の完全実施・定着により、H17/3 月末の 1,600 名体制（除く出向者）構築を目標。
- ・ 給与・退職金は、H13/1 月に「新人事制度」および「総合退職金制度」を導入済、年功色の完全排除と各職務・資格に求められる基準を明確にしたメリハリのある運用を実施中。
- ・ H5 年度より管理職以上の賞与支給率の削減を実施、H8 年度には全職員に対象を拡大するとともにベースアップ凍結を実施済。H12 年度以降は削減率を 50%に拡大。

(B) 役員数の適正化と役員報酬・賞与の見直し

[持株会社]

- ・ 経営統合に際し、ガバナンス強化の観点から常勤取締役を 1 名増員し、取締役 8 名体制（うち社外取締役 1 名、子銀行取締役兼務 7 名）。
- ・ 経営監視機能強化のため、子銀行と兼務しない監査役 4 名（うち非常勤 3 名）新任。
- ・ 持株会社の役員報酬は、子銀行の報酬水準をベースに兼務取締役は持株会社・子銀行の折半で支給。
- ・ 利益処分における役員賞与は不支給。

[北陸銀行]

- ・取締役数は、ピークの 18 人から段階的に減員を進め、H15/6 月以降 7 人体制。
- ・H16/6 月に一旦 6 名体制とした後、経営統合に際し北海道銀行出身の持株会社取締役 役 を非常勤取締役として 1 名追加。
- ・地区事業部制導入による責任所在の明確化やリスク管理徹底の観点から、企画・管理部門と営業部門を分離し、専任の地区担当常務執行役員を配置する体制へと移行し、取締役会の機能を強化。
- ・役員報酬は、優先株式無配に対応し H14/1 月より減額率を最大 55%の適用、復配後も H14 年度決算の利益計画未達を受け、H15/7 月以降当面の間、減額率を据置くとともに役付役員の役職手当相当を自主返納、H16/7 月以降は規定比最大 50%減額で運用。
- ・役員賞与は不支給を継続。

[北海道銀行]

- ・取締役数は、ほくほくフィナンシャルグループの経営体制の確立に際し、北陸銀行と相互に役員を派遣した結果、計画比 1 名増員の 5 名体制。
- ・取締役会は、経営の意思決定と業務執行の監督機能に徹する体制としており、業務執行には業務担当執行役員を配する「執行役員制度」を導入。
- ・役員報酬は、H4 年度以降、段階的に削減し、役職に応じて 30～50%削減で対応。
- ・役員賞与は不支給を継続。

ロ．物件費の削減

(A) 店舗の見直し

[北陸銀行]

- ・高岡市内 2 支店（高岡清水町・高岡総合市場）の出張所化により、H16/9 月末支店数 130 カ店。
- ・H16/10 月に金沢市内の安江町支店を移転、東大通支店として新設時に 2 支店（東金沢・橋場）をエリア店とし出張所化済。

[北海道銀行]

- ・H16/9 月末支店数 121 カ店。
- ・全店フルバンキング体制の見直しに加え、近隣支店・出張所の統合に際し、店舗内店舗の形態による実質的な削減を進めており、H16/上半期も 1 支店を統括店へ実質的に統合。

(B) 店舗外ＡＴＭの見直し

[北陸銀行]

- ・コンビニＡＴＭ増設の一方、費用対効果の観点から特定施設内に設置された低稼働の店舗外自動機を中心に６ヵ所削減し、H16/9月末219ヵ所体制。

[北海道銀行]

- ・H16/4月より「コンビニＡＴＭ」を展開し、２社（イーネット、ローソン）との提携を進め、道内で540ヵ所1,018台のＡＴＭネットを提供。
- ・生活環境と地域の変化とともに、お客さまのご利用を第一に考え、利便性を維持しつつスクラップアンドビルトによる設置見直しと効率化推進。

(C) 業務のアウトソーシング・共同化等

[北陸銀行]

- ・総務・給与厚生部門を子会社の(株)北銀オフィスサービスへ移行（H16/4月）。
- ・札幌事務推進センターを廃止し、北海道地区におけるメール便の一部、バックオフィス業務の一部共同化・委託を北海道銀行との間で実施（H16/5月）。

[北海道銀行]

- ・基幹システムの開発および運営はアウトソーシング済。
- ・今後のシステム投資・運営コストの更なる効率化のため「エヌ・ティ・ティ・データ地銀共同センター」への加盟を計画、詳細について継続協議中。
- ・東京支店の手形交換業務を北陸銀行に委託（H16/9月）。

(D) 必要度の低い施設等の売却

[北陸銀行]

- ・H16/上半期中に単身寮１ヵ所、廃止店舗２ヵ所の計３件売却処分実施。

[北海道銀行]

- ・利用度・必要性の低い物件について、H16/上半期中に８物件の処分実施。

(E) 店舗の有効活用

[北陸銀行]

- ・三大都市部店舗を中心に店舗インフラの見直し実施、空中店舗化（浅草・渋谷・京

都の 3 支店) や富山南中央支店および京都支店におけるローソンとの共同店舗オープンなど、営業フロア面積適正化とそれに伴う一部賃貸等実施。

- ・余剰スペース活用策として駐車場の一部賃貸、壁面広告スペースの賃貸等を実施。

[北海道銀行]

- ・債権書類の本部集中管理に関して、店舗内店舗として事実上廃止をした支店の底地を有効活用。
- ・東京支店および資金証券グループ東京駐在を、北陸銀行東京支店ビルへの同居・移転予定。

(3)不良債権処理の進捗状況

イ．不良債権処理

大型倒産や新規発生が減少、また企業業績の回復や企業支援活動の促進による債務者区分のランクアップによる貸倒引当金の取り崩しが発生した一方で、事業再生に向けて不採算事業部門の切り離し等を必要とする先に対して支援のための償却等を実施しております。二行合算での不良債権処理損失額は 245 億円、一般貸倒引当金繰入・戻入分を含む合計では 254 億円となっております。

なお、債権放棄等により、取引先の支援を行なう場合に際しては、経済合理性・経営責任・社会的影響の 3 つの原則について十分な検討を行なったうえで実施しております。

[北陸銀行]

- ・個別貸倒引当金繰入、貸出金償却、債権売却・放棄等の不良債権処理損失額は 137 億円を計上し、一般貸倒引当金繰入 31 億円を合わせた貸倒償却引当費用は 169 億円。
- ・H16/4 月よりグループ子会社の日本海債権回収㈱に北陸三県の不良債権を中心に管理・回収業務を集中委託し、効果的かつ迅速な不良債権処理に注力 (H16/ 上半期中 149 件/約 7.4 億円の回収実績)。
- ・リレーションシップバンキングの機能強化計画に沿って、事業分割や企業合併の手法、D I PファイナンスやD E Sによる支援案件等で成果を上げたほか、中小企業再生協議会の機能を活用し再生支援ノウハウを蓄積・応用。

[北海道銀行]

- ・個別貸倒引当金繰入、貸出金償却、債権売却・放棄等の不良債権処理損失額は 108 億円を計上し、一般貸倒引当金戻入 22 億円を加味した貸倒償却引当費用は 85 億円。
- ・企業再生業務では、機能強化のため「企業支援グループ」を一昨年に設置済、取引先の経営改善をサポートする体制強化と企業再生に向けた具体的な支援業務に積極

的に対応中。

- ・産業再生機構やR C Cの活用、北海道企業再生ファンド（マザーランドキャピタル株）への出資・人材派遣実施、再生スキームの活用等、再生・支援での成果あり
- ・D E SやD D S等の再生手法の検討・活用に加え、外部機関導入も合わせて実施。
- ・不良債権の管理・回収強化およびオフバランス化促進のため業務の集約化部署として「債権管理グループ」を設置、管理・回収業務の実効性・効率性向上に加え、専門性の高い職員の養成と、ノウハウの集約・蓄積に注力。

ロ．不良債権残高

（金融機能の早期健全化のための緊急措置に関する法律第3条第2項に基づくH16/9月末の開示計数）

[二行合算]

- ・破綻更生債権等 845 億円（H16/3 月末比 ▲33 億円）
- ・危険債権 2,957 億円（ 同 ▲290 億円）
- ・要管理債権 1,611 億円（ 同 +44 億円）
- ・開示債権合計 5,415 億円（ 同 ▲279 億円）
- ・開示債権比率はH16/3 月末比 +0.16%低下の7.85%

[北陸銀行]

- ・破綻更生債権等 552 億円（H16/3 月末比 ▲57 億円）
- ・危険債権 1,872 億円（ 同 ▲63 億円）
- ・要管理債権 1,088 億円（ 同 +92 億円）
- ・開示債権合計 3,514 億円（ 同 ▲27 億円）
- ・開示債権の圧縮以上に総与信減少し開示債権比率はH16/3 月末比 +0.03%の7.91%
- ・破綻懸念先以下債権は約 120 億円減少したが、要管理債権の新規認定により開示債権残高合計では27 億円の減少

[北海道銀行]

- ・破綻更生債権等 293 億円（H16/3 月末比 +24 億円）
- ・危険債権 1,085 億円（ 同 ▲227 億円）
- ・要管理債権 522 億円（ 同 ▲48 億円）
- ・開示債権合計 1,900 億円（ 同 ▲251 億円）
- ・開示債権合計で251 億円減少し、開示債権比率はH16/3 月末比 0.52%低下の7.74%
- ・破綻懸念先以下債権は約 120 億円減少したが、要管理債権の新規認定により開示債権残高合計では28 億円の減少。

(4)国内向け貸出の進捗状況

イ．中小企業向け貸出の状況

(A) 平成 16 年 9 月期の状況

地域経済は、中国向け輸出の旺盛な素材関連産業や国内のデジタル家電関連の産業を中心に業績回復の兆しも見られるものの、公共事業抑制の影響も大きく、建設業を中心とした地場産業の業績低迷が続いております。

このようななか、北陸銀行および北海道銀行では中小企業を対象とした融資商品の拡充や販売体制の強化など、積極的に貸出残高増強に向けた施策を展開してまいりました。しかしながら、優良企業を中心とした財務リストラや設備投資の抑制等から、既存貸出金の返済圧力が大きく、結果として中小企業向け貸出は漸減傾向となっております。

なお、早期健全化法に規定されている中小企業向け貸出の趣旨に反するような貸出は含まれておりません。

[北陸銀行]

- ・ H16/9 月末の中小企業向け貸出は H16/3 月末比 701 億円減少の 2 兆 1,230 億円。
- ・ 実勢ベースで H16/ 上半期中 435 億円の減少。

[北海道銀行]

- ・ H16/9 月末の中小企業向け貸出は H16/3 月末比 593 億円減少の 1 兆 935 億円。
- ・ 実勢ベースで H16/ 上半期中 257 億円の減少。

(B) 取組状況 (P5 「 (A) 貸出の増強」再掲)

[二行共同の取り組み]

- ・ 経営統合を記念した「ほくほくファンド 2004」(北海道信用保証協会提携)発売 (H16/7 月) (H16/9 月末実行累計 891 件 /7,444 百万円)
- ・ 両行相互のお取引先紹介・協同しての渉外活動の展開。

[北陸銀行]

- ・ 顧客接点の拡大と融資マーケット拡大施策として「貸出先数増強運動」、「活動量倍増運動」の実施 (H16/7 月 ~)
- ・ 北陸三県の商工業者対象の一斉訪問・相談実施 (H16/4 月、訪問先数約 16 千件)
- ・ 中部 C L O 融資 (富山県・愛知県・岐阜県対象) 19 件 /703 百万円実行 (H16/7 月)
- ・ 財務制限条項付貸出商品 (H16/1 月発売、H16/9 月末実行累計 61 件 /2,754 百万円)
各道府県信用保証協会と連携したスコアリング商品、サポートファンド保証制度

(H16/9月末実行累計 503 件/6,809 百万円)等の積極推進。

- ・従来の中小口ローンタスクフォースに臨店指導機能を強化した中小企業貸出推進タスクフォースを結成、人員も 4 名から 7 名に増員 (H16/10 月～)。
- ・事業性新規融資 H16/上半期実績 1,788 先、534 億円 (H16/9 月末残高)。

[北海道銀行]

- ・審査権限の見直しによる「支店長決裁権限の拡大」と営業店における「決裁ラインの簡素化」により、お取引先の資金需要に迅速に対応する体制を構築。
- ・お取引先の利便性を勘案した商品として、固定金利かつ低金利な長期資金を提供する「ターゲット」(H16/上半期実行累計 171 件/118 億円)等の商品を提供。
- ・札幌地区で小口融資向けの利便性と迅速性を兼ね備えた「ビジネスローンプラザ」を開設(H15/12 月～)し、ご契約時以外の来店が原則不要の独自商品「Mind o(マインドゥ)」を取り扱いし、小口資金ニーズとサービス向上に対応。
- ・「ビジネスローンプラザ」の人員を 4 名増員し 10 名体制として取り組みを強化。
- ・法人新規融資 16/上半期実績 457 社、実行額 313 億円。

(C) 平成 17 年 3 月期増加計画達成に向けた増強策

平成 16 年 9 月期においては、年度増加計画 42 億円に対して 735 億円の未達の状況にありますが、取り得る限りの諸施策を実行するとともに、従来以上に取り組みを強化し、年度増加計画の達成を確実なものにしていきたいと思います。

中小企業のニーズに応え、より多くの案件を取り込むため、引き続き商品の拡充・改定と販売人員・拠点など体制面の強化を図るとともに、行内での増強運動の展開や評価ウェイトの引き上げなどにより、取り組みのインセンティブを高めてまいります。また、役員も積極的に進捗管理と対応強化に取り組み、役員による渉外活動も強化するなど、グループ一丸となって計画達成に向け努力してまいります。

[北陸銀行]

- ・顧客ニーズに合わせたスモールビジネスローンの商品拡充および改定を実施
- ・「貸出先数増強」「訪問件数倍増」コンペの継続的实施
- ・「保証協会貸出基礎研修」「ビジネストレーニー」を実施
- ・評価体系において、中小企業貸出のウェイトを引き上げ

[北海道銀行]

- ・融資新規、ランクアップ(シェアアップ)推進に向けた取り組み継続
- ・役員渉外の強化
- ・ビジネスローンプラザを通じた小規模事業者への取引拡大

ロ．個人向け貸出の状況

(A) 平成 16 年 9 月期の状況

個人向け貸出は、ローン専門拠点の展開や、外部保証会社との提携商品投入等の施策で住宅ローンやカードローンの推進に注力した結果、両行とも残高が増加しております。

[北陸銀行]

- ・個人向け貸出総体では、H16/3 月末比 475 億円増加し、H16/9 月末残高 8,043 億円。
(住宅ローンを原債権とする信託受益権の購入分および住宅ローン債権の流動化にかかる劣後受益権、売却益相当額の H16/9 月末残高合計 1,473 億円を除くベース)
- ・消費者ローン(購入信託受益権等を含むベース)は H16/3 月末比 1,475 億円増加し H16/9 月末残高 8,688 億円(うち住宅ローン H16/9 月末残高 7,400 億円)

[北海道銀行]

- ・個人向け貸出は、H16/3 月末比 52 億円増加し、H16/9 月末残高 8,284 億円。
- ・道内各地の「住宅ローンプラザ」における住宅ローン取り組み強化、住宅関連業者との提携・優遇による関係強化に取り組み、順調に残高が増加。

(B) 取組状況 (P8「(A)個人向けローン増強」再掲)

[北陸銀行]

- ・ローン専門窓口である「ほくぎんローンプラザ」を 16 年上半期に 11 カ所を新設し、計 42 カ所体制に拡大。(休日営業拠点 23 カ所)
- ・住宅関連業者の営業担当者を組織化した「ほくぎんドリーム会」(H16/9 月末会員数約 3,450 名)に続き、ほくぎんリフォーム倶楽部発足しリフォーム業者を組織化(H16/9 月)
- ・外部保証会社と提携したフリーローン「サポートマン」(H16/6 月発売)、「ローンプラザパック」(H16/9 月発売)により申込手続き時の利便性を向上。
- ・カードローン件数 H17/3 月末 60 万件達成に向け給振先へのセット推進、職域セールスの強化(H16/9 月末 535 千件〔前期末比 + 55 千件〕、上半期中 11 億円の残高増加実績)

[北海道銀行]

- ・住宅ローン推進拠点の「住宅ローンプラザ」を道内主要 10 都市で 12 カ所展開。住宅ローンの推進、提携業者工作の拠点として体制を強化。

- ・「住宅ローン～提携プラン」を取扱い提携業者との連携強化。
- ・24時間受付、年中無休・非来店型の無担保カードローン「ラピッド」の増強。
(累計5万件超、H16年上半期中24億円の残高増加実績)

(C) 平成17年3月期増加計画達成に向けた増強策

- ・両行とも前掲の住宅ローン、カードローンの推進によって計画達成を図る。

八．国内貸出の状況

国内貸出総体では、事業性貸出・公共部門向け貸出の減少を個人向け貸出の増加でカバーできず、大幅に減少しております。引き続き地域の資金需要開拓に努め、円滑な資金供給を図ることで貸出金の増強に繋げてまいります。

[北陸銀行]

- ・H16/9月末残高はH16/3月末比1,274億円減少の4兆1,049億円。
- ・実勢ベースでのH16/上半期減少額 915億円。

[北海道銀行]

- ・H16/9月末残高はH16/3月末比1,482億円減少の2兆4,139億円。
- ・実勢ベースでのH16/上半期減少額 1,086億円。

(5) 配当政策の状況及び今後の考え方

当グループは、銀行業の公共性に鑑み、長期にわたる安定的な経営基盤の確保に努めるとともに、安定的な配当を行うことを基本方針としております。

普通株式配当につきましては、マーケットにおける信頼という観点にも十分留意しつつ、社外流失の抑制・内部留保の充実による経営体質改善に重点を置き、内部留保がある程度蓄積されるまでは極力抑制してまいります。

(6)その他経営健全化計画に盛り込まれていた事項の進捗状況

イ．責任ある経営体制の確立

[持株会社]

(取締役会、監査役会)

- ・経営統合に際して、持株会社としてのリスク管理機能を強化するため、リスク管理グループを所管する常勤取締役 1 名を追加するとともに、監査役 4 名（子銀行兼務なし）を新たに配置し、持株会社 + 2 銀行では平成 16 年 3 月の役員数より計 5 名増加
- ・子銀行役員を兼務しない社外取締役 1 名、社外監査役 3 名の選任により、外部からの視点による客観的な経営監督機能を強化
- ・持株会社、子銀行の監査役は各々を兼務せず、全て専任とすることで十分な監査体制を確立し、経営監視機能を強化

(業務監査委員会の設置)

- ・取締役会の助言機関として、経営健全化計画の履行状況のフォローや経営への提言を目的に外部専門家を中心に構成する業務監査委員会を設置し、3 ヶ月に 1 回の頻度で開催し第 1 回委員会を H16/12 月に実施。
- ・委員は弁護士、会計士、学者等の専門家 5 名に F G 常勤監査役 1 名で構成。

[北陸銀行]

(経営諮問委員会の設置)

- ・H14/2 に、地元有識者等 14 名が委員に就任、「経営顧問会議」を設置。
- ・H16/5 月に第 6 回経営諮問委員会を開催。「ほくほく F G の設立」「決算概況」「経営健全化計画」等のテーマについて、地元有識者の立場から提言頂き、経営に反映。

[北海道銀行]

(経営顧問会議の設置)

- ・H15/7 に、お取引先や地元有識者 7 名が経営顧問に就任、「経営顧問会議」を設置。
- ・H16 上半期は、本会議 1 回、懇談会 2 回開催。「ほくほく F G の設立」「経営健全化計画」および「リレーションシップバンキング機能強化計画」等、当行の経営の根幹に関するタイムリーな議事について、第三者の立場からの貴重なご意見を頂き、経営に反映。

ロ．劣後債の引受け又は劣後ローンによる貸付けその他の方法による子会社の財務内容の健全性の確保

株式会社ほくほくフィナンシャルグループは、グループの自己資本充実を目的として、劣後債又は劣後ローンその他の方法による資金調達を行うことがあります。当該資金は子会社の財務内容の健全性を確保するため、子会社が発行する社債の引受け又は子会社への貸付金に使用されるものであります。

なお、当社において、現在、劣後特約付債務はありません。

ハ．企業再生支援等の取り組み

(A) 創業又は新規事業の開拓に対する支援に係る機能の強化

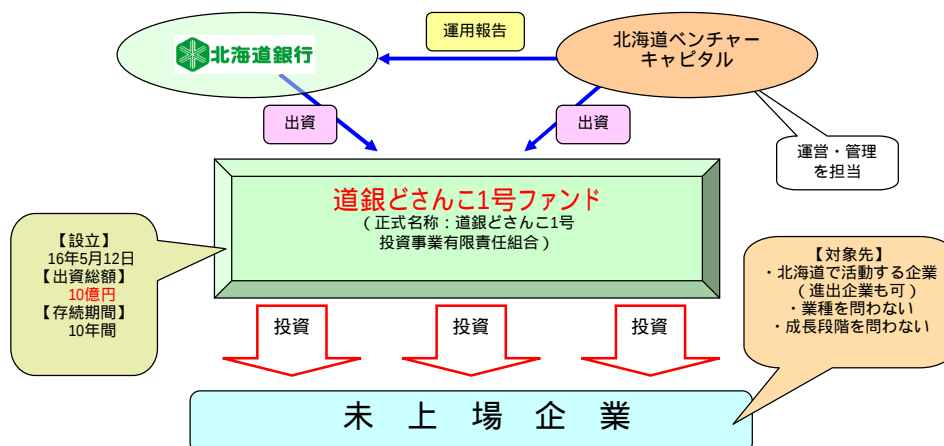
[北陸銀行]

- ・ H16/5 月に「ほくぎん産業クラスターサポートローン」を発売。本商品は、北陸三県の有望な研究開発型企業の発掘、育成を目的として、中部経済産業局北陸支局が推進する「産業クラスター計画・北陸ものづくり創生プロジェクト」に係る補助金交付決定先に対する補助金交付までのつなぎ資金としての取扱。
- ・ 金沢大学 T L O でのプレゼンテーション実施等、産学官連携による事業支援機能強化 (H16/5 月・8 月) 。

[北海道銀行]

- ・ 道内における資金調達手段の多様化ニーズへの対応のため、5 月に北海道銀行オリジナルの企業育成ファンド「道銀どさんこ1号ファンド」を創設(北海道の活性化、発展に貢献することを目的とし、対象先を北海道で活動する未上場企業であれば、業種、成長段階を問わず。道内への進出予定企業も投資対象) 。

16 年 9 月末までの投資実績は 7 先 233 百万円



(B) 経営に関する相談その他の取引先の企業（個人事業者を含む）に対する支援に係る機能の強化

[北陸銀行]

- ・取引先への一斉集中訪問、商工会議所・商工会・税理士会等と連携した移動経営相談会の実施等、経営支援機能を強化。
- ・ビジネスマッチング研修の実施や顧客貢献運動の強化によるビジネスマッチングの取り組み強化（H15/4月～H16/9月累計実績約16千件）。
- ・取引先との契約に基づくビジネスマッチング業務の開始（H16/6月～）。
- ・経営統合を記念した「ほくほくF G ビジネスフォーラム 2004」を富山市で開催し、北海道内企業を含む出展企業81社、参加企業608社の交流、商談の場を提供（H16/9月）。

[北海道銀行]

- ・法人営業グループにおいて、取引先の事業発展を総合的に支援するため、営業基盤を活かした豊富な情報と、長年にわたり蓄積した専門的なノウハウによるさまざまなサポートサービスを提供（販路・仕入先の拡大ニーズに対するビジネスマッチングや、M & A , I S O / H A C C P 認証取得、財務戦略支援、事業承継、人事・賃金制度コンサルティング等の多岐にわたるニーズに対応）。
- ・北海道庁を中心に組織する「北海道企業誘致推進会議」に参画し、企業誘致の取組に積極的に協力（進出企業に対し、「北海道企業立地促進条例」に基づき各自治体が制定した制度融資と「道銀どさんこファンド」による資本参加などの金融支援、道内での事業活動展開に必要な営業情報として、仕入・販売先の紹介・斡旋を実施）。
- ・H16/10月に北海道ビジネスフォーラムを開催。

(C) 早期の事業再生に資する方策

[北陸銀行]

- ・H15/4に設置した「企業支援タスクフォース」において再建計画の策定支援、健全化に向けた方策の実行支援に取り組み中。人員は当初60名体制からH16/1に120名とし、H16/6までに更に130名に増員。
- ・本支店の企業支援担当者、支援先への出向者を横断的に組織し、関連業務のノウハウ共有化、連携強化を通じて再生支援の取り組みを強化。
- ・H15/4からの経営改善支援取組み334先中、ランクアップ実績66先。

[北海道銀行]

- ・H13に「企業支援チーム」を組成以来、組織改編・増員を経て営業部門の正式部署

「企業支援グループ」として活動。(多面的なコンサルティングの実施のため、審査部門経験者のほか、中小企業診断士有資格者や支店長経験者を配置)。

- ・ 支援対象先を 479 社に拡大し、与信残高の規模に応じて営業店主導先と企業支援グループ主導先に明確化、外部機関によるコンサル導入や D E S 等の金融手法の活用を含め多面的に検討実施。
- ・ H15/4 からの経営改善支援取組み 424 先中、ランクアップ実績 83 先。

二．地域経済における位置づけ

北陸銀行、北海道銀行の両行は、それぞれの主要な営業基盤である北陸三県、北海道とその地域の皆さまへの使命と役割を認識し、「地元の皆さまからのゆるぎない信頼と支持を得る地域のリーディングバンク」の実現に向け、自行の持つノウハウ、情報、ネットワークを最大限に活用してリテール業務に特化するとともに、両行のインフラを有効に活用して北陸三県、北海道、三大都市圏をつなぐビジネスの架け橋役となることで、地域企業の発展、ひいては地域経済の活性化に寄与し、経営理念にある「地域共栄」の追求に努めております。

貸出金シェア

貸出金シェア推移（下段は信金除くシェア）

（単位：億円、％）

	12年3月末	13年3月末	14年3月末	15年3月末	16年3月末
北陸三県	26.8% 34.1%	26.1% 33.2%	27.0% 34.0%	28.0% 35.5%	28.1% 35.5%
富山県	45.4% 54.5%	44.0% 52.9%	45.7% 54.5%	46.4% 55.5%	46.6% 55.5%
石川県	15.6% 20.0%	15.3% 19.7%	15.8% 20.1%	17.6% 22.9%	17.8% 23.0%
福井県	16.6% 22.8%	16.2% 22.1%	16.5% 22.1%	16.6% 22.3%	16.0% 21.5%
北海道	25.0% 33.1%	25.3% 33.4%	26.9% 36.0%	25.9% 34.8%	26.2% 35.3%
うち北海道銀行分	20.0% 26.5%	20.5% 26.9%	20.5% 27.4%	20.6% 27.7%	21.1% 28.4%
北陸三県＋北海道	25.8% 33.5%	25.7% 33.3%	27.0% 35.1%	26.9% 35.1%	27.0% 35.4%

預金シェア

預金シェア推移（下段は信金除くシェア）

（単位：億円、％）

	12年3月末	13年3月末	14年3月末	15年3月末	16年3月末
北陸三県	28.3% 36.6%	28.1% 36.4%	27.8% 35.9%	28.0% 36.6%	27.5% 36.1%
富山県	52.3% 65.1%	51.5% 64.4%	51.5% 64.2%	50.5% 63.5%	49.8% 62.8%
石川県	14.3% 18.5%	14.2% 18.4%	13.9% 18.1%	15.5% 20.5%	15.0% 19.9%
福井県	15.2% 20.6%	15.1% 20.6%	14.0% 18.9%	14.0% 19.0%	13.7% 18.6%
北海道	23.4% 33.9%	23.2% 33.6%	21.6% 31.4%	21.0% 30.6%	21.2% 31.0%
うち北海道銀行分	19.5% 28.2%	19.4% 28.1%	17.9% 26.0%	17.4% 25.4%	17.8% 26.1%
北陸三県＋北海道	25.6% 35.2%	25.4% 34.9%	24.4% 33.6%	24.1% 33.4%	24.0% 33.4%

北陸財務局「北陸経済調査月報・北陸地域主要経済指標」・北海道財務局「北海道金融統計」より
集計対象金融機関：都銀・地銀・第二地銀・信託銀行・長期信用銀行・信用金庫
貸出金計数は部分直接償却後

(図表 1 - 1) 収益動向及び計画 [(株) ほかほかフィナンシャルグループ]

持株会社 平成15年9月 設立

	15/3月期 実績	16/3月期 実績	16/9月期 実績	備考	17/3月期 計画
(規模)<資産、負債は平残、資本勘定は末残>					(億円)
総資産		966	2,100		2,646
貸出金		—	—		—
有価証券		960	2,076		2,615
総負債		7	0		0
資本勘定計		1,886	3,178		3,198
資本金		500	500		500
資本準備金		1,338	2,613		2,619
その他資本剰余金		—	—		—
利益準備金		—	—		—
剰余金 (注)		48	66		80
自己株式		▲ 0	▲ 0		▲ 1
(収益)					(億円)
経常利益		48	38		69
受取配当金		49	38		69
経費		1	2		7
人件費		0	0		0
物件費		1	2		7
特別利益		—	—		—
特別損失		—	—		—
税引前当期利益		48	38		69
法人税、住民税及び事業税		0	0		0
法人税等調整額		—	—		—
税引後当期利益		48	38		69
(配当)					(億円、円、%)
配当可能利益		48			80
配当金総額 (中間配当を含む)		21	16		52
普通株配当金		9	—		19
優先株配当金 < 公的資金分 >		11	8		16
優先株配当金 < 民間調達分 >			8		16
1株当たり配当金 (普通株)		1.00	—		1.50
同 (第1種優先株)		7.70	3.85		7.70
同 (第4種優先株)			3.31		6.62
同 (第5種優先株)			7.50		15.00
配当率 (優先株 < 公的資金分 >)		1.54	1.39		1.39
配当率 (優先株 < 民間調達分 >)			3.00		3.00
配当性向		43.76	42.60		75.52
(経営指標)					(%)
ROE (当期利益/資本勘定<平残>)		5.10	3.04		2.71
ROA (当期利益/総資産<平残>)		5.06	3.66		2.61

(注) 利益剰余金のうち、利益準備金以外のもの。

(図表 1 - 1) 収益動向及び計画[2 社合算ベース：北陸銀行 + 北海道銀行]

	15/3月期 実績	16/3月期 実績	16/9月期 実績	備考	17/3月期 計画
(規模) <資産、負債は平残、資本勘定は未残> (億円)					
総資産	89,580	89,035	88,927		88,419
貸出金	65,212	65,081	65,308		65,296
有価証券	13,818	15,409	14,222		14,168
特定取引資産	55	28	27		18
繰延税金資産<未残>	1,680	1,513	1,398		1,377
総負債	85,722	85,834	85,647		85,240
預金・N C D	80,011	81,125	81,414		81,043
債券	—	—	—		—
特定取引負債	4	14	24		9
繰延税金負債<未残>	—	—	—		—
再評価に係る繰延税金負債<未残>	100	82	79		75
資本勘定計	2,847	3,154	3,189		3,221
資本金	2,339	2,339	2,339		2,339
資本準備金	739	317	317		317
その他資本剰余金	—	—	—		—
利益準備金	11	9	21		27
剰余金 (注1)	▲ 231	330	337		370
土地再評価差額金	148	120	117		114
その他有価証券評価差額金	▲ 159	36	55		52
自己株式	▲ 0	▲ 0	—		—
(収益)					
業務粗利益	1,750	1,905	868		1,736
資金運用収益	1,619	1,608	756		1,524
資金調達費用	143	126	53		101
役務取引等利益	200	233	132		253
特定取引利益	10	23	12		20
その他業務利益	63	167	20		40
国債等債券関係損(▲)益	45	52	2		8
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)	831	1,017	418		836
業務純益	783	1,041	409		836
一般貸倒引当金繰入額	47	▲ 23	8		0
経費	919	887	449		900
人件費	434	404	200		399
物件費	432	436	218		446
不良債権処理損失額	903	938	245		535
株式等関係損(▲)益	▲ 359	77	12		0
株式等償却	294	5	2		0
経常利益	▲ 467	173	184		287
特別利益	110	31	1		0
特別損失	240	37	10		13
法人税、住民税及び事業税	3	1	0		2
法人税等調整額	▲ 77	7	97		129
税引後当期利益	▲ 523	157	75		141
(配当)					
配当可能利益	49	250			295
配当金総額(中間配当を含む)	11	95	30		128
普通株配当金	0	62	24		95
優先株配当金<公的資金分>	11	5	—		—
優先株配当金<民間調達分>	0	27	5		32
1株当たり配当金(北陸銀行普通株)	—	6.00	2.50		2.50
1株当たり配当金(北海道銀行普通株)	—	1.00	—		19.00
配当率(優先株<公的資金分>)	(注3) 1.54	1.16	—		—
配当率(優先株<民間調達分>)	—	2.14	(注3) 1.54		1.89
配当性向		60.70	40.18		90.91

(注1) 利益剰余金のうち、利益準備金以外のもの。

(注2) 北陸銀行の従来計画において含めて表記していた税金を控除した額で記載。

(注3) 優先株配当率の15/3月期<公的資金分>、16/9月期<民間調達分>は北陸銀行の優先株式のみの配当率を記載。

	15/3月期 実績	16/3月期 実績	16/9月期 実績	備考	17/3月期 計画
(経営指標)					
資金運用利回(A)	1.98	1.94	1.84		1.86
貸出金利回(B)	2.21	2.16	2.06		2.07
有価証券利回	1.20	1.20	1.05		1.09
資金調達原価(C)	1.28	1.22	1.21		1.19
預金利回(含むNCD)(D)	0.13	0.10	0.07		0.07
経費率(E)	1.14	1.09	1.10		1.11
人件費率	0.54	0.49	0.49		0.49
物件費率	0.54	0.53	0.53		0.55
総資金利鞘(A)-(C)	0.70	0.72	0.63		0.66
預貸金利鞘(B)-(D)-(E)	0.93	0.97	0.88		0.89
非金利収入比率	15.69	22.22	19.04		18.07
O H R (経費 / 業務粗利益)	52.52	46.56	51.80		51.83
R O E (一般貸引前業務純益 / 資本勘定<平残>)	26.76	33.91	26.31		26.23
R O A (注)	0.92	1.16	0.96		0.96

(注) 15/3月期は (一般貸引前業務純益 / 総資産<平残>) 、16/3月期以降は (一般貸引前業務純益 / (総資産 - 支払承諾見返) <平残>) 。

(図表 1 - 2) 収益動向 (連結ベース (注))

	16/3月期 実績	16/9月期 実績	17/3月期 見込み
(規模)<未残>			(億円)
総資産	90,993	89,181	
貸出金	68,494	66,335	
有価証券	13,617	13,775	
特定取引資産	38	96	
繰延税金資産	1,518	1,387	
総負債	87,794	85,530	
預金・N C D	82,860	81,760	
債券	—	—	
特定取引負債	9	8	
繰延税金負債	—	—	
再評価に係る繰延税金負債	82	79	
少数株主持分	1	4	
資本勘定計	3,196	3,646	
資本金	1,435	500	
資本剰余金	1,221	2,722	
利益剰余金	381	303	
土地再評価差額金	120	117	
その他有価証券評価差額金	51	6	
為替換算調整勘定	—	—	
自己株式	▲ 14	▲ 2	

(収益)			(億円)
経常収益	2,617	1,154	2,280
資金運用収益	1,590	756	
役務取引等収益	344	198	
特定取引収益	23	12	
その他業務収益	380	125	
その他経常収益	277	61	
経常費用	2,438	964	2,000
資金調達費用	129	54	
役務取引等費用	90	50	
特定取引費用	—	—	
その他業務費用	191	83	
営業経費	952	478	
その他経常費用	1,071	296	
貸出金償却	355	24	
貸倒引当金繰入額	578	251	
一般貸倒引当金純繰入額	▲ 27	12	
個別貸倒引当金純繰入額	606	239	
経常利益	178	190	280
特別利益	31	0	
特別損失	38	12	
税金等調整前当期純利益	171	179	
法人税、住民税及び事業税	3	7	
法人税等調整額	7	96	
少数株主利益	0	0	
当期純利益	159	74	130

(注) 16/3実績は、ほくぎん F G 連結と北海道銀行連結の合算。
16/9実績 (収益) は、ほくぎん F G 連結と北海道銀行連結 (16年8月までの分) の合算。
17/3見込み (収益) は、ほくぎん F G 連結と北海道銀行連結 (16年8月までの分) の合算。

(図表 2) 自己資本比率の推移 ... 採用している基準(国内基準)

(北陸銀行単体)

(億円)

	15/3月期 実績	16/3月期 実績	16/9月期 実績	備考	17/3月期 計画
資本金	1,404	1,404	1,404		1,404
うち非累積的永久優先株	375	375	375		375
資本準備金	149	149	149		149
その他資本剰余金	—	—	—		—
利益準備金	2	16	22		23
任意積立金	—	—	—		—
次期繰越利益	187	179	177		179
その他	—	—	—		—
うち優先出資証券	—	—	—		—
その他有価証券の評価差損	141	11	14		43
自己株式	▲ 0	—	—		—
営業権相当額	—	—	—		—
Tier 計	1,602	1,738	1,739		1,714
(うち税効果相当額)	(1,061)	(959)	(896)		(859)
有価証券含み益	—	—	—		—
土地再評価益	112	91	88		85
一般貸倒引当金	303	334	366		334
永久劣後債務	465	465	465		465
その他	—	—	—		—
Upper Tier 計	881	891	920		884
期限付劣後債務・優先株	235	184	153		133
その他	—	—	—		—
Lower Tier 計	235	184	153		133
Tier 計	1,116	1,075	1,073		1,018
(うち自己資本への算入額)	(1,031)	(949)	(906)		(888)
Tier	—	—	—		—
控除項目	0	0	0		0
自己資本合計	2,633	2,687	2,645		2,602

リスクアセット	35,104	33,424	31,770		32,714
オンバランス項目	34,147	32,127	30,561		31,524
オフバランス項目	956	1,296	1,209		1,190
その他(注)	—	—	—		—

自己資本比率	7.50	8.04	8.32		7.95
Tier 比率	4.56	5.20	5.47		5.24

(注) マーケット・リスク相当額を 8 % で除して得た額。

北陸銀行が平成 15 年 3 月期に実施した不動産の証券化ならびに 16 年 3 月期に実施した住宅ローン債権の証券化に関連したリスクアセットの算定方法を修正したことにより、自己資本比率を遡って修正しております。詳細は P35 に記載のとおりです。

(図表2)自己資本比率の推移 ... 採用している基準(国内基準)

(北海道銀行単体)

(億円)

	15/3月期 実績	16/3月期 実績	16/9月期 実績	備考	17/3月期 計画
資本金	935	935	935		935
うち非累積的永久優先株	493	493	493		493
資本準備金	589	167	167		167
その他資本剰余金	—	—	—		—
利益準備金	11	5	5		23
任意積立金	—	—	—		—
次期繰越利益	▲ 433	78	123		72
その他	—	—	—		—
うち優先出資証券	—	—	—		—
その他有価証券の評価差損	17	—	—		—
自己株式	▲ 0	▲ 0	—		—
営業権相当額	—	—	—		—
Tier 計 (うち税効果相当額)	1,085 (619)	1,186 (554)	1,231 (501)		1,199 (518)
有価証券含み益	—	—	—		—
土地再評価益	—	—	—		—
一般貸倒引当金	297	236	213		236
永久劣後債務	—	—	—		—
その他	—	—	—		—
Upper Tier 計	297	236	213		236
期限付劣後債務・優先株	—	—	—		—
その他	—	—	—		—
Lower Tier 計	—	—	—		—
Tier 計 (うち自己資本への算入額)	297 (124)	236 (126)	213 (123)		236 (126)
Tier	—	—	—		—
控除項目	0	0	0		0
自己資本合計	1,208	1,312	1,355		1,325

リスクアセット	19,892	20,258	19,786		20,260
オンバランス項目	19,398	19,890	19,414		19,900
オフバランス項目	439	368	371		360
その他(注)	—	—	—		—

自己資本比率	6.07	6.47	6.84		6.54
Tier 比率	5.45	5.85	6.22		5.91

(注)マーケット・リスク相当額を8%で除して得た額。

(連結)

(億円)

	15/3月期 実績(注)	16/3月期 実績(注)	16/9月期 実績	備考	17/3月期 計画
資本金	2,339	1,435	500		500
うち非累積的永久優先株	868	493	—		—
資本剰余金	739	1,224	2,722		2,722
利益剰余金	▲ 226	332	286		308
連結子会社の少数株主持分	1	1	4		1
うち優先出資証券	—	—	—		—
その他有価証券の評価差損	159	—	—		—
自己株式	▲ 11	▲ 14	▲ 2		▲ 0
為替換算調整勘定	—	—	—		—
営業権相当額	—	—	—		—
連結調整勘定相当額	—	—	▲ 413		▲ 404
その他	—	—	—		—
Tier 計	2,683	2,979	3,096		3,128
(うち税効果相当額)	(1,687)	(1,518)	(1,387)		(1,382)
有価証券含み益	—	—	—		—
土地再評価益	112	91	88		85
一般貸倒引当金	607	592	604		592
永久劣後債務	465	465	465		465
その他	—	—	—		—
Upper Tier 計	1,184	1,148	1,158		1,142
期限付劣後債務・優先株	235	184	153		133
その他	—	—	—		—
Lower Tier 計	235	184	153		133
Tier 計	1,419	1,332	1,311		1,275
(うち自己資本への算入額)	(1,156)	(1,076)	(1,029)		(1,014)
Tier	—	—	—		—
控除項目	3	2	3		2
自己資本合計	3,836	4,053	4,123		4,140

リスクアセット	55,053	53,651	51,506		52,914
オンバランス項目	53,676	52,087	50,016		51,462
オフバランス項目	1,376	1,564	1,490		1,452
その他(注)	—	—	—		—

自己資本比率	6.96	7.55	8.00		7.82
Tier 比率	4.87	5.55	6.01		5.91

(注) マーケット・リスク相当額を8%で除して得た額。

(注) 15/3月期実績は、北陸銀行連結と北海道銀行連結の合算。

(注) 16/3月期実績は、ほくほくFG連結と北海道銀行連結の合算。

北陸銀行が平成15年3月期に実施した不動産の証券化ならびに16年3月期に実施した住宅ローン債権の証券化に関連したリスクアセットの算定方法を修正したことにより、自己資本比率を遡って修正しております。詳細はP35に記載のとおりです。

自己資本比率の修正について

北陸銀行が平成 15 年 3 月期に実施した不動産の証券化ならびに 16 年 3 月期に実施した住宅ローン債権の証券化に関連したリスクアセットの算定方法を修正したことにより、自己資本比率を遡って修正しております。

【北陸銀行単体】

		(億円)		
		15/3月期 実績	15/9月期 実績	16/3月期 実績
修正前	自己資本	2,633	2,675	2,686
	Tier 1	1,602	1,691	1,738
	Tier 2	1,031	984	947
	控除項目	0	0	0
	リスクアセット	35,040	34,554	33,141
	オンバランス	34,147	33,707	32,308
	オフバランス	892	846	832
	自己資本比率	7.51%	7.74%	8.10%
	Tier 1比率	4.57%	4.89%	5.24%
修正後	自己資本	2,633	2,675	2,687
	Tier 1	1,602	1,691	1,738
	Tier 2	1,031	984	949
	控除項目	0	0	0
	リスクアセット	35,104	34,618	33,424
	オンバランス	34,147	33,707	32,127
	オフバランス	956	910	1,296
	自己資本比率	7.50%	7.72%	8.04%
	Tier 1比率	4.56%	4.88%	5.20%

【連結】(15/3 は北陸銀行連結、15/9・16/3 は持株会社連結)

		(億円)		
		15/3月期 実績	15/9月期 実績	16/3月期 実績
修正前	自己資本	2,628	2,717	2,738
	Tier 1	1,599	1,734	1,792
	Tier 2	1,031	984	947
	控除項目	2	1	1
	リスクアセット	35,098	34,526	33,110
	オンバランス	34,279	33,744	32,377
	オフバランス	818	782	732
	自己資本比率	7.48%	7.87%	8.27%
	Tier 1比率	4.55%	5.02%	5.41%
修正後	自己資本	2,628	2,717	2,740
	Tier 1	1,599	1,734	1,792
	Tier 2	1,032	984	949
	控除項目	2	1	1
	リスクアセット	35,162	34,590	33,392
	オンバランス	34,279	33,744	32,196
	オフバランス	882	846	1,196
	自己資本比率	7.47%	7.85%	8.20%
	Tier 1比率	4.54%	5.01%	5.36%

(図表6) リストラの推移及び計画 [3社合算ベース：持株会社＋北陸銀行＋北海道銀行]

	15/3月末 実績	16/3月末 実績	16/9月末 実績	備考	17/3月末 計画
--	--------------	--------------	--------------	----	--------------

(役職員数)

役員数 (人)	22	19	24		24
うち取締役()内は非常勤 (人)	14(2)	11(1)	12(1)		12(1)
うち監査役()内は非常勤 (人)	8(6)	8(6)	12(9)		12(9)
従業員数(注) (人)	5,347	4,832	4,704		4,550

(注)事務職員、庶務職員合算。在籍出向者を含む。嘱託、パート、派遣社員は除く。

(国内店舗・海外拠点数)

国内本支店(注1) (店)	262	255	253		249
海外支店(注2) (店)	—	—	—		—
(参考)海外現地法人 (社)	1	1	1		1

(注1)出張所、外為集中店、ローン専用ダイレクト支店、払込専門支店、共同利用ATM管理専門支店を除く。

(注2)出張所、駐在員事務所を除く。

	15/3月末 実績	16/3月期 実績	16/9月末 実績	備考	17/3月期 計画
--	--------------	--------------	--------------	----	--------------

(人件費)

人件費 (百万円)	43,494	40,516	20,151		40,472
うち給与・報酬 (百万円)	34,651	32,362	16,310		32,738
平均給与月額 (千円)	382	388	391		400

(注)平均年齢38.8歳(平成16年9月末)。

(注)持株会社から子銀行に支払う出向社員事務協力費を含む。

(役員報酬・賞与)

役員報酬・賞与(注1) (百万円)	218	182	103		221
うち役員報酬 (百万円)	215	179	101		218
役員賞与 (百万円)	3	3	1		3
平均役員(常勤)報酬・賞与 (百万円)	13	12	6		14
平均役員退職慰労金(注2) (百万円)	—	—	7		7

(注1)使用人兼務の場合、使用人部分を含む。なお、利益処分による役員賞与はない。

(注2)平均役員退職慰労金計画は取締役常務(取締役3年、常務3年)、取締役(取締役4年)が退職の場合の平均。

(物件費)

物件費 (百万円)	43,236	43,497	21,741		44,166
うち機械化関連費用(注) (百万円)	13,237	13,028	6,503		12,982
除く機械化関連費用 (百万円)	29,999	30,469	15,238		31,184

(注)リース等を含む実質ベースで記載している。

(注)北陸銀行の従来計画において含めて表記していた税金を控除した額で記載。

(注)持株会社から子銀行に支払う出向社員事務協力費および子銀行から持株会社に支払う経営管理料を除く。

(人件費＋物件費)

人件費＋物件費 (百万円)	86,730	84,013	41,893		84,638
---------------	--------	--------	--------	--	--------

(図表7) 子会社・関連会社一覧

会社名	設立 年月	代表者	主な業務	直近 決算								連結又 は持分 法の別
					総資産	借入金 (注1)	うち北陸 銀行分、 北海道銀 行分	資本 勘定	うちグル ープ会社出 資分	経常 利益	当期 利益	

(株)ほくほくフィナンシャルグループの子会社・関連会社

北銀リース(株)	S58/7	小谷 徹夫	リース業、貸金業、割賦販売	16/9	561	508	477	11	1	5	3	連結
(株)北陸カード	S58/3	加納 十久雄	クレジットカード、貸金業・保証業務	16/9	112	68	59	7	0	1	1	連結
北陸保証サービス(株)	S53/12	松井 泰治	保証業務	16/9	92	0	0	6	1	2	0	連結
北銀ソフトウェア(株)	S61/5	岩田 次雄	ソフトウェアの開発	16/9	4	0	0	2	0	1	0	連結
日本海債権回収(株)	H15/12	吉村 知明	債権管理回収業務	16/9	5	-	-	5	5	0	0	連結
北陸キャピタル(株)	S60/1	千田 宗之	ベンチャーキャピタル、貸金業、経営相談業務	16/9	71	57	57	10	1	1	1	持分法

(株)北陸銀行の子会社

北銀ビジネスサービス(株)	S28/3	河口 脩一	文書・帳票等管理、印刷・DM発送、人材派遣業務	16/9	5	-	-	3	0	0	0	連結
北銀オフィスサービス(株)	S61/3	加世多 達也	人材派遣業務	16/9	2	-	-	0	0	▲0	▲0	連結
北銀不動産サービス(株)	S63/9	加世多 達也	不動産賃貸管理業務	16/9 (注2)	344	24	17	302	1	▲0	1	連結
北銀資産管理(株)	H12/3	田上 政輝	自己競落業務	16/9	3	-	-	3	3	▲0	▲0	連結
Hokuriku International Cayman Limited(億ドル)	H5/4	松本 雅登	会社に準ずる事業体 (劣後債発行のための会社)	16/9 (注2)	3	3	3	0	0	0	0	連結

(株)北海道銀行の子会社

道銀ビジネスサービス(株)	S54/6	佐賀山 博	現金等の整理精査	16/9	1	-	-	0	0	0	0	連結
道銀カード(株)	S52/6	後藤 寿衛	クレジットカード、保証業務	16/9	145	-	-	9	0	9	8	持分法

(注1) 借入金のうち北陸銀行分、北海道銀行分は保証を含む。

(注2) 連結決算に使用した個別財務諸表の(仮)決算日を記載。

(図表 8 -) 経営諸会議・委員会 (株)ほくほくフィナンシャルグループ)

会議・委員会名	議長	メンバー	担当部署	開催 頻度	目的・討議の内容
取締役会	社長	取締役 8 [社外メンバー-1] (監査役 4) [社外メンバー-3]	企画グループ	月 1 回	・法令や定款に定める事項を決議 ・経営の基本方針ならびに業務執行に関する重要事項を審議
経営会議	社長	常勤取締役	企画グループ	随時 (2)	・取締役の決議した基本方針に基づく業務執行 ・各部門の特に重要な業務執行に関する事項を審議
監査役会	常勤監査役	監査役 4 [社外メンバー-3]	監査役室	原則として年 3 回 (1)	・監査の方針、監査計画、監査の方法、監査業務の分担、監査役の職務の執行等を協議・決議
業務監査委員会	事務局	外部専門家 4 FG 内監査役 2 [社外メンバー-4]	企画グループ	四半期に 1 回 (0)	・外部有識者による経営健全化計画の履行状況のチェック・フォローを行うとともに、経営への提言を通じて持株会社のガバナンスを強化
営業推進会議	企画担当取締役	常勤取締役 (常勤監査役) 子会社・関連会社社長	企画グループ	随時 原則として月 1 回	・取締役会で決定した経営方針ならびに経営会議で決定された業務執行方針等に基づきグループ営業の方向性・基本戦略の徹底、情報の交換・共有化を図り、子会社・関連会社の業務遂行に反映 ・特に、営業推進をメインテーマとし、計画の進捗状況等を管理

* 開催頻度欄の () は、(株)ほくほくフィナンシャルグループ設立 (平成 15 年 9 月 1 日) から平成 16 年 9 月末までの開催実績

(図表 8 -) 経営諸会議・委員会 (株)北陸銀行)

会議・委員会名	議長	メンバー	担当部署	開催 頻度	目的・討議の内容
取締役会	頭取	取締役 7 (監査役 4) [社外メンバー-3]	秘書室	月 1 回	・法令や定款に定める事項を決議 ・経営の基本方針ならびに業務執行に関する重要事項を審議
常務会	頭取	頭取が指名する 本店内部在勤 役付役員	総合企画部	随時 (50)	・取締役の決議した基本方針に基づく業務執行 ・各部門の特に重要な業務執行に関する事項を審議
監査役会	常任監査役	監査役 4 [社外メンバー-3]	監査役室	原則として年 3 回 (5)	・監査の方針、監査計画、監査の方法、監査業務の分担、監査役職務の執行等を協議・決議
経営諮問委員会	事務局 (北陸経済研究所特別研究員)	学界・経済界・行政等に 関係する 14 名の委員 [社外メンバー-14]	総合企画部	半期 1~2 回 (1)	・取締役会への助言機関 ・外部有識者や地域の方々の声を経営に反映させる
コンプライアンス委員会	総合企画部 担当役付役員	本部長 (常任監査役)	総合企画部 経営管理部 (法務室)	原則として四半期 に 1 回 (6)	・コンプライアンスについての具体的な計画の策定とその実施状況のモニタリング ・コンプライアンスに関する事項を組織横断的に意見交換し、コンプライアンスを徹底
ALM 委員会	役付役員	総合企画部 支店部 国際業務部 市場金融部 融資第一部 営業渉外部 リスク統括部	総合企画部	月 1 回	・金融・債券市場金利の予測 ・資金の運用・調達の基本方針・実績検討 ・リスク管理の徹底 ・収益管理に関する事項の審議
総合機械化委員会	総合事務部 担当役付役員	本部長	総合事務部	随時 (0)	・システムの導入・開発・運用計画策定、進捗状況確認 ・事務合理化計画策定・モニタリング
全店長会議	副頭取	常勤役員 本部長・担当部長 全支店長・出張所長	総合企画部	年 2 回	・経営方針・業務運営方針の全支店長への徹底
火曜会	頭取	本店内部在勤役付役員 常任監査役 本部長・担当部長	総合企画部	月 1 回	・業務運営に関する各部実績についての検討
部長会	総合企画部長	本部長 常任監査役	総合企画部	随時 (3)	・緊急案件についての検討
月曜会	総合企画部 総合企画グループ長	本部副部長 グループ長	総合企画部	月 1 回	・経営方針に基づく具体的施策についての本部各部への徹底 ・コンプライアンスおよびリスク管理に係る事項の意見交換

* 開催頻度欄の () は、過去半年間 (平成 16 年 4 月 ~ 平成 16 年 9 月) の開催実績

(図表 8 -) 経営諸会議・委員会 (株) 北海道銀行)

会議・委員会名	議長	メンバー	担当部署	開催 頻度	目的・討議の内容
取締役会	取締役頭取	取締役 5 (監査役 4) [社外メンバー - 3]	秘書室	月 1 回 その他必要に応じて随時	・法令や定款に定める事項を決議 ・経営の基本方針ならびに業務執行に関する重要事項を審議
経営会議	頭取執行役員	本部執行役員 (除く本部駐在地区営業担当役員)	経営企画 G	毎月曜日 その他必要に応じて随時	・取締役会より委任された業務事項を決定
監査役会	常任監査役	監査役 4 [社外メンバー - 3]	監査役会事務局	原則として年 3 回 (5 回)	・監査の方針、監査計画、監査の方法、監査業務の分担、監査役職務の執行等を協議・決議
経営顧問会議	取締役頭取	外部有識者 7 名 [社外メンバー - 7]	経営企画 G	年 2 回 懇談会は月 1 回	・取締役会への助言機関 ・外部有識者や地域の方々の声を経営に反映させる
営業会議	執行役員副頭取	営業部門、審査部門の担当役員	営業企画 G	3 ヶ月毎	・業務推進の重要方針の協議 ・各地域の情報交換 等
全店長会議	頭取執行役員	本部執行役員 常任監査役 全支店長・出張所長 各 G リーダー	経営企画 G	年 1 回	・上期総合業務計画および重点施策の徹底
支店長会議	頭取執行役員	本部執行役員 常任監査役 全支店長・出張所長 各 G リーダー	経営企画 G	年 1 回	・下期総合業務計画および重点施策の徹底
ALM 委員会	頭取執行役員	本部各部門担当役員 経営企画 G 調査役	経営企画 G	月 1 回 その他必要に応じて随時	・金融・債券市場金利の予測 ・資金運用・調達基本方針・実績検討 ・リスク管理の徹底 ・業務計画、収益管理に係る事項の審議
A L M 小委員会	経営企画 G 調査役	経営企画 G・資金証券 G・リスク管理 G・営業企画 G・審査 G の各諸役	経営企画 G	毎週 1 回 その他必要に応じて随時	・A L M 委員会の補佐機関 ・A L M 委員会からの権限委譲により仕切りレート 店頭表示レートを決定することができる。
グループリーダー会議	経営企画 G 調査役	各 G リーダー	経営企画 G	毎月 1 回	・各グループ間での情報交換等
システム開発案件協議会	経営企画 G 調査役	経営企画 G・人事総務 G・システム企画 G・事務管理 G・営業企画 G・審査 G の各諸役	経営企画 G	随時 (14 回)	・システム開発案件についてその必要性、妥当性等を協議

不良債権検討会	リスク管理部 門担当役員	審査部門担当 役員 審査 G・審査 管理 G・ロー ンセンター・ リスク管理 G の各諸役	審査 G	月 1 回	・先月中に発生した倒産先及び 6 カ月超 延滞先について協議
賞罰委員会	委員の互選	頭取が指名	人事総務 G	随時 (1 回)	・就業規則に定める職員の賞罰につき頭 取の諮問に答え又は意見を具申
暴力団対策委 員会	リスク管理部 門担当役員	経営企画 G・ 人事総務 G・ 検査 G・リス ク管理 G・事 務管理 G・お 客様相談室・ 営業企画 G・ 審査 G・審査 管理 G の各 G リーダー	お客様相談 室	随時 (0 回)	・暴力団取引排除のための情報収集 ・営業店の対応指導 ・暴力団対策研修会等の企画・実施 ・その他暴力団に関連する事案対応
店舗企画連絡 会	営業企画 G 調査役	営業企画 G・ 人事総務 G・ 経営企画 G・ 事務管理 G の 各諸役	営業企画 G	随時 (1 回)	・店舗及び店舗外自動機の設置等にかか る検討
コンプライア ンス委員会	リスク管理部 門担当役員	リス ク 管 理 G・経営企画 G・人事総務 G・検査 G・ 営業企画 G・ 事務管理 G・ お 客 様 相 談 室・審査 G の 各 G リーダー 必要に応じ各 G 諸役	リスク管理 G	3 カ月毎 その他必 要に応じ 随時	・コンプライアンス態勢整備に係る課題 の明確化と対応方針・施策の協議 ・法務リスク管理に係る方針の協議、 個別案件の審議
経営健全化推 進委員会	頭取執行役員	本部執行役員 常任監査役 経営企画 GL 必要に応じ各 G 諸役	経営企画 G	毎月 1 回	・経営健全化計画の進捗状況の把握・評 価と体制等の機動的な見直し
経営健全化推 進委員会 事務局	経 営 企 画 G 調査役	経営企画 G・ 資金証券 G・ リス ク 管 理 G・営業企画 G・法人営業 G・個人営業 G・審査 G の 各諸役	経営企画 G	毎月 1 回	・経営健全化推進委員会の補佐機関 ・経営健全化計画の進捗状況の把握・評 価と体制等の機動的な見直し

* 開催頻度欄の () は、過去半年間 (平成 16 年 4 月～平成 16 年 9 月) の開催実績

(図表10) 貸出金の推移 [2社合算ベース：北陸銀行 + 北海道銀行]

(残高)	16/3月末 実績 (A)	16/9月末 実績 (B)	備考	(億円) 17/3月末 計画 (C)
国内貸出	67,945	65,188		67,176
中小企業向け貸出 (注)	33,459	32,148		32,551
個人向け貸出 (事業用資金を除く)	15,800	16,327		16,949
その他	18,685	16,712		17,675
海外貸出	20	0		10
合計	67,965	65,188		67,186

(注) 中小企業向け貸出とは、資本金又は出資金3億円(但し、卸売業は1億円、小売業・飲食業・サービス業は50百万円)以下の法人または常用する従業員が300人(但し、卸売業・サービス業は100人、小売業・飲食業は50人)以下の法人向け貸出(個人に対する事業用資金を含む)を指す。ただし、当社の連結子会社・持分法適用会社向け貸出を除く。

なお、個人向け貸出から、消費者ローンを原資産とする信託受益権分は控除しております。

(増減額・実勢ベースを算出するうえで考慮すべき要因考慮後)

	16/9月期 実績 (B)-(A)+(7)	備考	(億円) 17/3月期 計画 (C)-(A)+(イ)
国内貸出	▲ 2,001		331
中小企業向け貸出	▲ 693		42

(実勢ベースを算出するうえで考慮すべき要因)

	16/9月期 実績 (7)	備考	(億円、()内はうち中小企業向け貸出) 16年度中 計画 (イ)
不良債権処理	566 (494)		
貸出金償却 (注1)	26 (21)		
部分直接償却実施額 (注2)	170 (132)		
CCPC (注3)	0 (0)		
協定銀行等への資産売却額(注4)	0 (0)		
上記以外への不良債権売却額	9 (8)		
その他の処理額 (注5)	358 (330)		
債権流動化(注6)	7 (7)		
私募債等 (注7)	244 (178)		
子会社等 (注8)	▲ 63 (▲ 63)		
計	755 (617)		1,100 (950)

(注1) 無税化 (法人税基本通達 9 - 6 - 1、9 - 6 - 2、9 - 4 - 1、9 - 4 - 2) を事由とする直接償却額。

(注2) 部分直接償却当期実施額。

(注3) 共同債権買取機構に売却した債権に関する最終処理額。

(注4) 金融機能の再生のための緊急措置に関する法律第53条で定められた協定銀行等への債権売却額。

(注5) その他の不良債権処理による残高減少額。

(注6) 主として正常債権の流動化額。

(注7) 私募債の引受等、実質的に貸出と同様の信用供与が行われているものの取組額。

(注8) 連結子会社・持分法適用会社向け貸出のうち、中小企業向け信用供与の円滑化に資するもの。

(図表 12) リスク管理の状況 [ほくほくフィナンシャルグループ]

リスク区分		当期における改善状況
信用リスク	【規定・基本方針】 ・信用リスクの基本方針 ・クレジットポリシー ・グループ与信限度ライン管理規定 【体制・リスク管理部署】 ・リスク管理グループ 【リスク管理手法】 ・信用リスク管理の基本方針を年度ごとに取締役会で決議し、それに則った管理・運営を実施	・北陸銀行・北海道銀行・北銀リース等グループ内の共通取引先及び大口与信先を名寄せし、グループ全体の統合管理手法を策定、下期より実施予定。
マーケットリスク	【規定・基本方針】 ・市場リスク管理の基本方針 ・市場リスク管理規程 【体制・リスク管理部署】 ・リスク管理グループ 【リスク管理手法】 ・市場リスク管理の基本方針を年度ごとに取締役会で決議し、それに則った管理・運営を実施	・子銀行からの報告に基づき、グループ全体のポジション・損益・VaR等のリスク指標の状況をモニタリング、定期的に経営陣に報告する体制を整備。
流動性リスク	【規定・基本方針】 ・流動性リスク管理の基本方針 ・流動性リスク管理規定 【体制・リスク管理部署】 ・リスク管理グループ 【リスク管理手法】 ・市場リスク管理の基本方針を年度ごとに取締役会で決議し、それに則った管理・運営を実施	・子銀行からの報告に基づき、各行のリスク指標の遵守状況を把握しつつ、グループ全体のリスク状況をモニタリング。
カントリーリスク	【体制・リスク管理部署】 ・リスク管理グループ	・北陸銀行および北海道銀行において格付機関の格付を基準に限度額を設定しており、遵守状況を管理
オペレーショナルリスク(EDPリスクも含む)	【規定・基本方針】 ・システムリスク管理の基本方針 ・情報資産の安全性確保に関する基本方針 ・コンティンジェンシープラン 【体制・リスク管理部署】 ・リスク管理グループ ・企画グループ 【リスク管理手法】 ・システムリスク管理の基本方針を年度ごとに取締役会で決議し、それに則った管理・運営を実施。 ・尚、緊急時にはコンティンジェンシープランに基づき、企画グループが主管グループとして全体を統括。	・子銀行では、リスク管理部署がシステムリスク状況を把握・管理しており、定期的ないしは必要に応じて都度持ち株会社に報告を実施。

リスク区分		当期における改善状況
法務リスク	【規定・基本方針】 ・コンプライアンスの基本方針 ・コンプライアンス遵守基準 ・コンプライアンス規程 ・コンプライアンス・マニュアル 【体制・リスク管理部署】 ・リスク管理グループ 【リスク管理手法】 ・コンプライアンスに関する情報を一元管理し、コンプライアンス上の諸問題・遵守状況をモニタリング。都度および定期的に経営への報告を実施。	・年度毎にグループ各社のコンプライアンス・プログラムを策定し、半期ごとに集約および見直しを実施 ・持株会社においてもグループ統合時にコンプライアンス・プログラムの見直しを実施。
レピュテーションリスク	【規定・基本方針】 ・コンティンジェンシープラン 【体制・リスク管理部署】 ・企画グループ 【リスク管理手法】 ・企画グループが中心となり機動的に対応	・積極的なディスクロージャーに向け体制整備

(図表 12) リスク管理の状況 [北陸銀行]

リスク区分		当期における改善状況
信用リスク	【規定・基本方針】 ・信用リスクの基本方針 ・融資運営方針 ・貸出金取扱規定(クレジットポリシー) ・グループ与信限度ライン管理規定 【体制・リスク管理部署】 ・融資第一部(信用リスク管理の企画運営、一般与信先、消費者ローン) ・リスク統括部(信用リスク管理の統括) ・融資第二部(大口与信先、再生支援先) ・融資第三部(与信管理先) ・市場金融部(対外与信(非日系)および市場取引に係る信用リスク管理) ・営業渉外部(金融・公金) 【リスク管理手法】 ・貸出金取扱規定をクレジットポリシーとして明確化し、これを踏まえた信用リスク管理の基本方針を年度毎に取締役会で決議し、それに則った管理・運営を実施 ・信用格付をベースとした個者別の管理が基本 ・信用格付状況・自己査定結果を監査部が監査・検証	・リスク管理の統括部署としてリスク統括部を新設 ・貸出金取扱規定の見直し 金融検査マニュアルや事務ガイドラインなどの考え方を踏まえ、クレジットポリシー部分を拡充 ・信用格付制度の見直しと、自己査定との一体化推進 ・融資第二部内に「企業支援機動チーム」を設置し、お取引先の事業再生サポート体制を強化
マーケットリスク	【規定・基本方針】 ・市場リスク管理の基本方針 ・市場業務取扱管理規程 ・A L M委員会規定 【体制・リスク管理部署】 ・A L M委員会 ・リスク統括部(当行全体のマーケットリスク管理) ・市場金融部(市場業務に係るマーケットリスク管理) 【リスク管理手法】 ・市場リスク管理の管理方針を半期ごとに取締役会で決議し、それに則った管理・運営を実施 ・主として「市場業務取扱規定」により管理 ・独立したリスク管理部署であるリスク統括部および市場金融部の部内ミドルでけん制体制を確保 ・ポジション枠・損失限度は半期毎に常務会決済 ・毎月のA L M委員会で、全行的なリスク状況について分析・討議 ・統合市場リスク管理システムにより、ポジション、損益、V a R等のリスク指標の状況をモニタリングし、日次で担当取締役あて、月次で常務会あて報告	・リスク管理の統括部署としてリスク統括部を新設 ・市場リスク管理の基本方針を半期毎に制定 ・株式等の大口保有限度ラインを見直し

リスク区分		当期における改善状況
流動性リスク	【規定・基本方針】 ・流動性リスク管理の基本方針 ・流動性リスク管理規定 ・市場業務取扱規定 ・ALM委員会規定 【体制・リスク管理部署】 ・ALM委員会 ・リスク管理グループ ・市場金融部 【リスク管理手法】 ・流動性リスクの管理方針を半期毎に取締役会で決議し、それに則った管理・運営を実施 ・「流動性リスク管理規定」に基づき、日次ベースで資金繰りを管理 ・預貸金計画を流動性の観点を踏まえ検討 ・リスク顕現化の兆候があれば、資金会議を招集	・リスク管理の統括部署としてリスク統括部を新設 ・半期毎に市場リスク管理の基本方針を制定
カントリーリスク	【規定・基本方針】 ・貸出金取扱規定 ・市場業務取扱規定 【体制・リスク管理部署】 ・市場金融部(情報収集は海外事務所と連携) 【リスク管理手法】 ・国別与信枠は、半期毎に常務会決裁	
オペレーショナルリスク (EDPリスクも含む)	【規定・基本方針】 ・システムリスク管理の基本方針 ・情報資産の安全性確保に関する基本方針 ・コンティンジェンシープラン 【体制・リスク管理部署】 ・リスク統括部 ・総合事務部(事務リスク、システムリスク管理に係る統括部署) ・総合企画部(セキュリティー統括部署) ・融資第一部(融資業務) ・国際業務部(国際業務、サブシステム管理) ・市場金融部(投信業務、サブシステム管理) ・経営管理部(不祥事件等の人事管理) ・支店部(インターネットバンキング等) 【リスク管理手法】 ・システムリスク管理の基本方針を年度ごとに取締役会で決議し、それに則った管理・運営を実施 ・本部各部が所管業務について主管し、リスク統括部および総合事務部が全体を統括 ・適切な頻度で人事ローテーション実施・監査部が定例監査およびシステム監査で牽制	・オペレーショナルリスクも含めたリスク管理の統括部署としてリスク統括部を新設 ・総合事務部は、システムリスク管理の統括部署として国際業務部、市場金融部などにあるサブシステムの管理に関与 ・システムリスク防止対策の基本原則を整備

リスク区分		当期における改善状況
法務リスク	【規定・基本方針】 ・コンプライアンスの基本方針 ・コンプライアンス遵守基準 ・コンプライアンス規程 ・コンプライアンス・マニュアル 【体制・リスク管理部署】 ・コンプライアンス委員会 ・総合企画部(コンプライアンス統括) ・リスク統括部法務室(法務統括) ・本部各部(所管業務に係るコンプライアンスを主管) 【リスク管理手法】 ・法務リスクは、本部各部が所管業務について主管し、リスク統括部法務室が全体を統括 ・コンプライアンスは、総合企画部が統括 ・事故・トラブル等は総合企画部へ情報集中し、同部が中心となって対応 ・年度毎に本部各部のコンプライアンス・プログラムを策定し、半期毎に集約および見直しを実施	・年度毎にグループ各社のコンプライアンス・プログラムを策定し、半期ごとに集約および見直しを実施 ・ヤミ金融等不正口座に対する疑わしい取引の報告強化と強制解約等毅然とした対応を行内に徹底 ・盗難通帳等の預金払出しや、オレオレ詐欺事件の対応と報告体制を確立 ・コンプライアンスマニュアルの一部改訂
レピュテーションリスク	【規定・基本方針】 ・コンティンジェンシープラン ・金融システム不安等危機対応マニュアル 【体制・リスク管理部署】 ・総合企画部 【リスク管理手法】 ・総合企画部が中心となり機動的に対応	・「金融システム不安等危機対応マニュアル」を一部改訂

(図表 12) リスク管理の状況 [北海道銀行]

リスク区分		当期における改善状況
信用リスク	【規定・基本方針】 ・クレジットポリシー ・融資業務の手引 ・自己査定基準書、償却・引当基準書 【体制・リスク管理部署】 ・審査グループ 個別取引先の審査、特定先の審査管理、債務者格付の実施・活用、信用リスクの計量化、自己査定統括、与信ポートフォリオ分析 ・債権管理グループ 破綻先・実質破綻先債権の管理・回収・整理 ・リスク管理グループ 自己査定結果の監査 【リスク管理手法】 ・一債務者・一企業グループあたりの貸出限度額 ・信用リスクの計量化	・システム格付導入に伴う諸規定の改正 ・ビジネスローンプラザ開設に伴う運用規程の制定 ・財務診断資料作成システムの運用開始と、事業計画書フォーマットの改正 ・収益還元法・鑑定士評価活用のための不動産担保評価規程の改正 ・延滞業務本部集約体制実施。また破綻、実質破綻先の自己査定一時査定を本部で実施
マーケットリスク	【規定・基本方針】 ・市場リスク管理の基本方針 ・A L Mの基本戦略とリスク管理ノ基本方針 ・市場取引の基本戦略 ・有価証券運用の基本方針 ・市場リスク管理基準書 ・A L Mの戦略目標 【体制・リスク管理部署】 ・A L M委員会を中心とするA L M管理体制 ・資金証券グループ、経営企画グループ、リスク管理グループ 【リスク管理手法】 ・リスク管理の基本方針に基づき、「市場リスク管理基準書」により管理 ・リスク管理グループがミドルオフィスとしてV a R、感応度、修正デュレーション等のリスク指標を算出。A L M小委員会、A L M委員会で預貸金含む運用調達の金利リスク、価格変動リスクを分析・討議 ・取引種類毎、個社別の取引限度・損失限度、ロスカットルール等を基本にリスク管理。 ・政策株式についても総合的な取引採算を考慮した見直しを実施。市場リスクは評価損益、等価ポジション、V a R算出し担当役員、A L M委員会に定例報告	・「市場リスク管理基準書」の一部改正（資産流動化商品運用基準、および外国為替取引運用基準） ・「A L Mの基本戦略とリスク管理基本方針」の一部改正 ・「A L Mの戦略目標」の制定 ・円貨建債券について、従来の月次ベースに加え日次ベースV a Rの試算開始 ・持合い解消の保有株式を一部売却、株価変動リスクの抑制

リスク区分		当期における改善状況
流動性リスク	【規定・基本方針】 ・流動性(資金繰り)リスク管理の基本方針 ・ALMの基本戦略とリスク管理基本方針 ・流動性リスク管理基準書 ・緊急時の資金等対応マニュアル ・ALMの戦略目標 【体制・リスク管理部署】 ・ALM委員会を中心とするALM管理体制 ・資金証券グループ、経営企画グループ、リスク管理グループ 【リスク管理手法】 ・調達余力管理(第一線準備額)、足元資金管理を基本とし、半期毎に策定する「ALMの戦略目標」において具体的目標を策定し日次ベースで管理。目標未達となった場合、ALM委員会等で対応協議	・「市場リスク管理基準書」の流動性リスク管理基準書の内容を一部改訂 ・「円資金繰り業務規定」改訂
カントリーリスク	【規定・基本方針】 ・市場リスク管理基準書 【体制・リスク管理部署】 ・リスク管理グループ、資金証券グループ、海外業務サポートセンター 【リスク管理手法】 ・自己資本に応じた限度額の設定	・コルレス契約見直し実施
オペレーショナルリスク(EDPリスクも含む)	【規定・基本方針】 ・検査規定、検査基準書、事務規程 ・「金融機関等のコンピューターシステムの安全対策基準」に基づく規定、マニュアル 【体制・リスク管理部署】 ・検査グループ、事務管理グループ、システム企画グループ、海外業務サポートセンター 【リスク管理手法】 ・臨店検査による運営・管理・事務取扱の検証、指導 ・システム毎のリスク認識、評価、安全対策の実施	・コンピューターシステム大規模障害時の「大規模障害対応マニュアル」の改訂 ・外為取引における本人確認マニュアル制定
法務リスク	【規定・基本方針】 ・コンプライアンスの体制について ・倫理規程 ・コンプライアンス・マニュアル 【体制・リスク管理部署】 ・コンプライアンス委員会 ・リスク管理グループ(コンプライアンス、法務リスクの統括)	・倫理規程の改訂 ・コンプライアンス・マニュアルの改訂

リスク区分		当期における改善状況
	・コンプライアンス管理者(本部各グループ、営業店) 【リスク管理手法】 ・コンプライアンス自己点検による本部、営業店でのチェック ・統括部署であるリスク管理グループにコンプライアンス相談窓口を設置 ・リーガルチェックは各部署で実施し、リスク管理グループへ報告 ・顧問弁護士との緊密な連絡体制を維持	
レピュテーションリスク	【規定・基本方針】 ・災害等対策マニュアル 【体制・リスク管理部署】 ・経営企画グループ 【リスク管理手法】 ・当行の信認に影響を与える可能性のある情報等への対応 ・株価、風評等に係る情報の収集	・積極的なディスクロージャーの継続実施 ・IR活動の一環として、地域IRに継続取り組み。

(図表13)金融再生法開示債権の状況

(単体は北陸銀行と北海道銀行の合算、16/3月期連結はほくぎんFG連結と北海道銀行連結との合算)

(億円)

	16/3月末 実績(単体)	16/3月末 実績(連結)	16/9月末 実績(単体)	16/9月末 実績(連結)
破産更生債権及び これらに準ずる債権	878	914	845	879
危険債権	3,248	3,290	2,957	2,998
要管理債権	1,566	1,585	1,611	1,635
小計	5,694	5,790	5,415	5,514
正常債権	65,332	64,880	63,516	63,430
合計	71,027	70,670	68,931	68,944

引当金の状況

(億円)

	16/3月末 実績(単体)	16/3月末 実績(連結)	16/9月末 実績(単体)	16/9月末 実績(連結)
一般貸倒引当金	570	592	579	604
個別貸倒引当金	1,349	1,385	1,365	1,404
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—
貸倒引当金 計	1,919	1,977	1,945	2,008
債権売却損失引当金	—	—	—	—
特定債務者支援引当金	—	—	—	—
小 計	1,919	1,977	1,945	2,008
特別留保金	—	—	—	—
債権償却準備金	—	—	—	—
小 計	—	—	—	—
合 計	1,919	1,977	1,945	2,008

(図表14)リスク管理債権情報 [2社合算ベース：北陸銀行 + 北海道銀行]

(億円、%)

	16/3月末 実績 (単体)	16/3月末 実績 (連結)	16/9月末 実績 (単体)	16/9月末 実績 (連結)
破綻先債権額 (A)	598	605	547	554
延滞債権額 (B)	3,440	3,494	3,162	3,213
3 か月以上延滞債権額 (C)	15	15	9	9
貸出条件緩和債権額 (D)	1,551	1,557	1,602	1,616
金利減免債権	36	36	39	39
金利支払猶予債権	51	51	49	49
経営支援先に対する債権	8	8	7	7
元本返済猶予債権	1,173	1,179	1,336	1,350
その他	281	281	167	167
合計 (E)=(A)+(B)+(C)+(D)	5,606	5,671	5,321	5,393
部分直接償却	2,242	2,284	2,174	2,216
比率 (E) / 総貸出	8.13	8.28	7.98	8.13

(図表15)不良債権処理状況 [2社合算ベース：北陸銀行 + 北海道銀行]

(単体)

(億円)

	16/3月期 実績	16/9月期 実績	17/3月期 見込み
不良債権処理損失額(A)	938	245	535
個別貸倒引当金繰入額	594	236	315
貸出金償却等(C)	385	20	220
貸出金償却	347	19	220
CCPC向け債権売却損	0	0	0
協定銀行等への資産売却損(注)	0	0	0
その他債権売却損	13	1	0
債権放棄損	24	0	0
債権売却損失引当金繰入額	0	0	0
特定債務者支援引当金繰入額	0	0	0
特定海外債権引当勘定繰入	▲ 7	0	0
その他	▲ 33	▲ 11	0
一般貸倒引当金繰入額(B)	▲ 23	8	0
合計(A) + (B)	914	254	535

<参考>

貸倒引当金目的取崩による直接償却等(D)	575	184	296
グロス直接償却等(C) + (D)	961	204	516

(連結)

(億円)

	16/3月期 実績	16/9月期 実績	17/3月期 見込み
不良債権処理損失額(A)	960	253	552
個別貸倒引当金繰入額	606	239	323
貸出金償却等(C)	397	25	229
貸出金償却	355	24	229
CCPC向け債権売却損	0	0	0
協定銀行等への資産売却損(注)	0	0	0
その他債権売却損	16	1	0
債権放棄損	24	0	0
債権売却損失引当金繰入額	0	0	0
特定債務者支援引当金繰入額	0	0	0
特定海外債権引当勘定繰入	▲ 7	0	0
その他	▲ 34	▲ 11	0
一般貸倒引当金繰入額(B)	▲ 27	12	0
合計(A) + (B)	933	265	552

<参考>

貸倒引当金目的取崩による直接償却等(D)	577	184	300
グロス直接償却等(C) + (D)	974	210	529

(注) 金融機能の再生のための緊急措置に関する法律第53条で定められた協定銀行等への債権売却損。

16/3月期連結はほくぎんFG連結と北海道銀行連結との合算

16/9月、17/3月期連結はほくほくFG連結と北海道銀行連結(8月までの分)との合算

(図表18)評価損益総括表(平成16年9月末、単体)[2社合算ベース:北陸銀行+北海道銀行]

有価証券

(億円)

		残高	評価損益	評価益	評価損
満期保有目的	有価証券	509	6	6	0
	債券	254	1	1	-
	株式	-	-	-	-
	その他	255	4	4	0
	金銭の信託	-	-	-	-
子会社等	有価証券	295	-	-	-
	債券	-	-	-	-
	株式	295	-	-	-
	その他	-	-	-	-
	金銭の信託	-	-	-	-
その他	有価証券	13,179	102	358	256
	債券	9,965	▲ 22	77	99
	株式	1,648	178	267	88
	その他	1,566	▲ 53	14	68
	金銭の信託	184	0	0	0

その他

(億円)

	貸借対照表 価額	時価	評価損益	評価益	評価損
事業用不動産(注1)	589	290	▲ 298	9	307
その他不動産	0	1	0	0	0
その他資産(注2)	-	1	56	95	39

(注1)「土地の再評価に関する法律」に基づき事業用不動産の再評価を

(北陸銀行<実施している>実施時期 10/3月>・実施していない)

(北海道銀行;実施している<実施時期 / 月>・実施していない)

(注2)デリバティブ取引、債務保証等の偶発債務に係る損益を含む。

(図表18)評価損益総括表(平成16年9月末、連結)

有価証券 (億円)

		残高	評価損益	評価益	評価損
満期保有目的	有価証券	509	6	6	0
	債券	254	1	1	-
	株式	-	-	-	-
	その他	255	4	4	0
	金銭の信託	-	-	-	-
子会社等	有価証券	2	-	-	-
	債券	-	-	-	-
	株式	2	-	-	-
	その他	-	-	-	-
	金銭の信託	-	-	-	-
その他	有価証券	13,264	9	224	214
	債券	9,965	▲ 36	46	83
	株式	1,737	94	174	80
	その他	1,561	▲ 47	4	51
	金銭の信託	184	0	0	0

その他 (億円)

	貸借対照表	時価	評価損益	評価益	評価損
	価額				
事業用不動産(注1)	656	424	▲ 231	1	233
その他不動産	1	1	-	-	-
その他資産(注2)	-	1	56	95	39

(注1)「土地の再評価に関する法律」に基づき事業用不動産の再評価を

(北陸銀行；実施している<実施時期 10/3月>・実施していない)(北海道銀行；実施している<実施時期 / 月>・実施していない)

(注2)デリバティブ取引、債務保証等の偶発債務に係る損益を含む。

状況説明

(図表 1 - 1) 収益動向及び計画 [㈱ほくほくフィナンシャルグループ]

総資産 (年度計画比 ▲546 億円) 、有価証券 (年度計画比 ▲539 億円)

経営統合により北海道銀行の全株式を取得し、H16/9 月末の有価証券残高は 3 月末比 1,276 億円増加の 3,143 億円、総資産は 3,179 億円となりました。北海道銀行株式の保有は 9 月 1 日以降のため、上半期の有価証券平残は 2,076 億円、総資産平残は 2,100 億円となっております。

(図表 1 - 1) 収益動向及び計画 [2 社合算ベース：北陸銀行 + 北海道銀行]

貸出金 (年度計画比 + 12 億円)

企業の需資は低調な局面が続き、また不良債権処理によるオフバランス化が進んだこともあり、事業性貸出は引き続き減少傾向となっておりますが、住宅ローンおよび地方公共団体向け貸出の増加により期中平残は、前年度実績比 + 227 億円となり、ほぼ年度計画の水準となっております。

有価証券 (年度計画比 + 54 億円)

株価変動リスクと金利リスクの低減のため残高圧縮を進めた結果、期中平残は前年度比 ▲1,187 億円となり、ほぼ年度計画の水準となっております。

繰延税金資産 (H17/3 計画比 + 21 億円) 、法人税等調整額 (年度計画比進捗率 75%)

財務の健全化を図るべく、繰延税金資産の一部取り崩しを前倒しで行ったことで、法人税等調整額に 97 億円を計上。繰延税金資産残高は H16/3 月末比 115 億円減少いたしました。

預金・N C D (年度計画比 + 371 億円)

「宝くじ付き定期預金」の取り扱いにより北海道銀行の個人定期性預金が前年度比 + 450 億円と堅調に増加したほか、法人・公金預金についても計画を上回ったことから、期中平残は前年度比 289 億円増加し、年度計画を 371 億円上回っております。

業務粗利益 (年度計画比進捗率 50%) 、業務純益 (一般貸倒引当金繰入前) (年度計画比進捗率 50%) 、経費 (年度計画比進捗率 50%)

事業性資金需要が低調に推移していることから、資金益は進捗率 50% を下回っておりますが、投信・保険販売等が好調に伸びたこと等による役務取引利益の増加等により、業務粗利益は年度計画の 50%。経費についてもほぼ年度計画の 50% となったことから、業務純益 (一般貸倒引当繰入前) は年度計画比進捗 50% となっております。

一般貸倒引当金繰入額（年度計画比 + 8 億円）、不良債権処理損失額（年度計画比進捗率 46%）

H16/9 月期は北陸銀行における要管理債権に対する引当率の引き上げ等により一般貸倒引当金が積み増しとなったほか、経営統合に伴い、担保評価の考え方等、基準の統一を一部実施したことによる引当増加がありました。企業業績の回復を背景に、不良債権の新規発生・ランクダウンは低水準となり、一般貸倒引当金繰入額を含むベースで、不良債権処理コストは年度計画の 47%に留まりました。

（図表 2）自己資本比率の推移（北陸銀行単体）

期限付劣後債務（H17/3 計画比 + 20 億円）

既存劣後債務の期限到来に向け算入額が前期末比 31 億円減少いたしました。H17/3 月末までに、更に 20 億円減少し、計画通り 133 億円となる見込みであります。

リスクアセット（H17/3 計画比 ▲ 944 億円）

事業性貸出残高の減少の一方で住宅ローン等の低リスク資産を積み上げてきたことから、リスクアセットは H16/3 月末比 1,654 億円減少いたしました。

（図表 2）自己資本比率の推移（北海道銀行単体）

自己資本合計（H17/3 計画比 + 30 億円）

中間純利益を計上し、前年度末から 43 億円増加、H17/3 月計画を 30 億円上回っておりますが、期末に持株会社への配当を予定しておりますので、H17/3 月末では計画の水準を見込んでおります。

リスクアセット（H17/3 計画比 ▲ 474 億円）

貸出金が減少傾向にあり、リスクアセットは前年度末対比 ▲ 472 億円の 1 兆 9,786 億円となりました。

（図表 2）自己資本比率の推移（連結）

資本金（H16/3 合算比 ▲ 935 億円）、資本剰余金（+ 1,498 億円）、連結調整勘定（▲ 413 億円）

北海道銀行との経営統合に伴い、パーチェース法による資本連結手続きにより、資本金・資本剰余金の合計が増加となっている一方、連結調整勘定が計上されております。本連結調整勘定については、今後 20 年で償却してまいります。

(図表 6) リストラの推移及び計画

平均給与月額 (H16/3 実績比 + 3 千円)

パートスタッフの活用等により正行員数を削減しており、正行員に占める管理職の割合の増加や平均年齢の上昇を反映して、平均給与月額は H16/3 月比増加いたしました。

(図表 1 0) 貸出金の推移

中小企業向け貸出 (H16/3 実績比 ▲ 1,311 億円) 実勢増減額 (▲ 693 億円)

資金需要が低調に推移していることから、実勢ベースで H16/3 月末比 ▲ 693 億円。不良債権の償却や担保処分等による回収も進めており、実勢要因考慮前では、▲ 1,311 億円となりました。

個人向け貸出 (H16/3 実績比 + 527 億円)

住宅ローンを中心とした個人向けローンは堅調に推移し、H16/3 月末比 527 億円増加となりました。

以 上